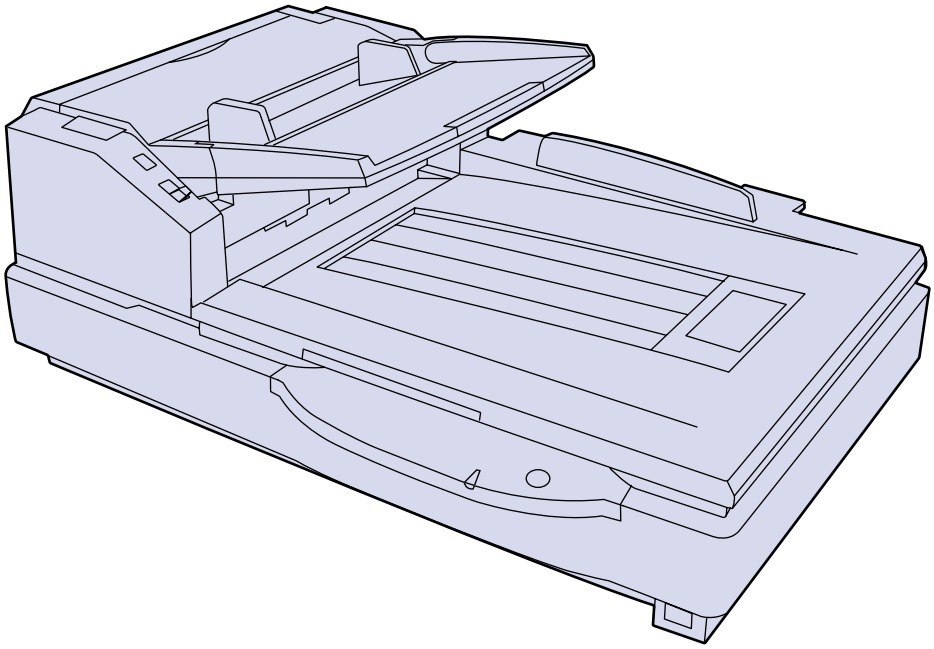
Panasonic

取扱説明書

高速カラースキャナー

品番 KV-S7065CN



上手に使って上手に節電

保証書別添付

- この取扱説明書をよくお読みのうえ、正しくお使いください。特に「安全上のご注意」（5 ～ 9 ページ）は、ご使用前に必ずお読みいただき、安全にお使いください。
  お読みになったあとは、保証書と一緒に大切に保管し、必要なときにお読みください。
- 保証書は、「お買い上げ日・販売店名」などの記入を必ず確かめ、販売店からお受け取りください。

このたびは、パナソニック「高速カラースキャナー」をお買い上げいただき、まことにありがとうございました。

本書の表記について

■ 本書では、操作上お守りいただきたいことなど、大切な情報を次のマークで表しています。

お 願 い	操作上、お守りいただきたい重要事項や、禁止事項が書かれています。 必ずお読みください。
☞◯◯	ご覧いただきたい参照ページを記述しています。

システムの必要条件について

■ 本機を使用するために必要なシステムは、以下のとおりです。

	SCSI 接続時	USB 接続時
コンピューター	IBM® PC/AT® 互換機、CD-ROM ドライブ	
CPU	Pentium® III, 1 GHz 以上	
OS	Windows® 2000※1, Windows® XP※2, Windows Vista™※3 ※ 64 ビット版では動作しません。	
インターフェース	SCSI III 推奨 SCSI ボード Adaptec 社製 SCSI 2930U、2940U、 19160 、29160N シリーズ Windows Vista の場合： Adaptec 社製 29160N、19160 シリーズ	USB 2.0
メモリー	512 MB 以上	
ハードディスク	空き容量 1 GB 以上	

※1 Windows 2000 の正式名称は、Microsoft® Windows® 2000 operating system です。
※2 Windows XP の正式名称は、Microsoft® Windows® XP operating system です。
※3 Windows Vista の正式名称は、Microsoft® Windows Vista™ operating system です。

※ この必要条件はすべてのオペレーティングシステム、同梱アプリケーションソフトウェアが推奨する条件を満たすものではありません。
※ コンピューターの動作環境またはアプリケーションによっては、読み取り速度が異なる場合があります。
※ USB1.1 で接続した場合、読み取り速度が遅くなりますので、USB2.0 インターフェースをご使用ください。
※ USB ハブに接続した場合の動作は保証できません。
※ スキャナーを他の SCSI 機器とデイジーチェインで接続して使う場合の動作は保証できません。

当社は、国際エネルギースタープログラムの参加事業者として、本製品が国際エネルギースタープログラムの対象製品に関する基準を満たしていると判断します。

- RTIV は松下電器産業株式会社の登録商標です。
- Microsoft、Windows、Windows Vista は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。
- ISIS、MultiStream、および QuickScan Pro は EMC Corporation の登録商標または商標です。
- Pentium はアメリカ合衆国および他の国におけるインテルコーポレーションおよび子会社の登録商標または商標です。
- Adaptec は Adaptec, Inc の登録商標です。
- その他、各社名および各商品名は、各社の商標または登録商標です。
- 本書の記載内容は予告なしに変更される場合があります。

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会（ＶＣＣＩ）の基準に基づくクラス A 情報技術装置です。この装置を家庭環境で使用すると電波妨害を引き起こすことがあります。この場合には使用者が適切な対策を講ずるよう要求されることがあります。

高調波対策ガイドライン適合品

接地接続は必ず、電源プラグを電源につなぐ前に行って下さい。又、接地接続を外す場合は、必ず電源プラグを電源から切り離してから行って下さい。

（J60950(H14) の要求による記述）

電源プラグは、抜き差しが容易にできる近くのコンセントに接続してください。

瞬時電圧低下について

本装置は、落雷等による電源の瞬時電圧低下に対し、不都合が生じることがあります。電源の瞬時電圧低下対策としては、交流無停電電源装置等を使用されることをお勧めします。
（社団法人電子情報技術産業協会（社団法人日本電子工業振興協会）のパーソナルコンピューターの瞬時電圧低下対策ガイドラインに基づく表示）

もくじ

ページ

はじめに

安全上のご注意 5
正しくお使いいただくためのお願い 10
コピー（複製）に関する注意事項 11

準備

各部のなまえとはたらき 12
■ DIP スイッチについて（SCSI 設定方法） 14
■ 電源スイッチ（電源を入れる） 15
■ LED について 15

使う

ADF で原稿を読み取る 16
■ ADF 読み取り時のお願い 16
■ 原稿を連続して読み取る場合 17
原稿を手差しで読み取る（複葉紙などの読み取り） 20
フラットベッドで原稿を読み取る 21
■ フラットベッドで原稿を読み取る場合 21
■ フラットベッドで繰り返し原稿を読み取る場合 22
コントロールシートを使う 23
基準板の設定を変える 24
■ ADF を使用する場合 24
■ フラットベッドを使用する場合 25

必要なとき

原稿が詰まったとき 26
■ 給紙口付近で原稿が詰まっている場合 26
■ 排紙口付近で原稿が詰まっている場合 27
お手入れについて 28
■ 外側の清掃 28
■ 内側（読み取り部）の清掃 28
■ 給紙ローラー・分離ローラー・リタードローラーの清掃 29
■ 給紙口の駆動ローラーとフリーローラーの清掃 31
■ 排紙口の駆動ローラー・フリーローラー・排紙ローラーの清掃 32
■ 基準板と ADF ガラスの清掃 33
■ 原稿センサー、待機センサー、重送検知（発振）、重送検知（受信）の清掃 34
■ 始端センサー・スキューセンサー・排紙センサーと各センサー反射板の清掃 35
■ フラットベッドガラスと原稿カバーセンサーの清掃 36
ローラーを交換する 37
■ 給紙ローラーモジュールの交換 37
■ リタードローラーの交換 39
シェーディング補正 41

その他

再包装のしかた 42
困ったとき !?（簡単なトラブル点検） 43
保証とアフターサービス 45
仕様 46
さくいん 47

安全上のご注意　必ずお守りください

お使いになる人や他の人への危害、財産への損害を未然に防止するため、必ずお守りいただくことを、次のように説明しています。

■ **表示内容を無視して誤った使いかたをしたときに生じる危害や損害の程度を、次の表示で区分し、説明しています。**

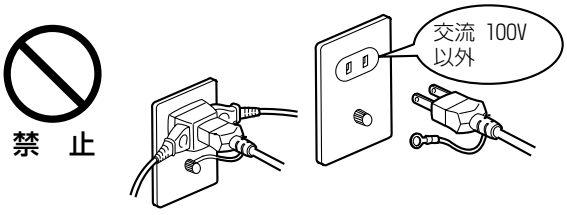
⚠警告	この表示の欄は、「死亡または重傷などを負う可能性が想定される」内容です。
⚠注意	この表示の欄は、「傷害を負う可能性または物的損害のみが発生する可能性が想定される」内容です。

■ **お守りいただく内容の種類を、次の絵表示で区分し、説明しています。**
（下記は絵表示の一例です。）

	このような絵表示は、してはいけない「禁止」内容です。
	このような絵表示は、必ず実行していただく「強制」内容です。

⚠警告

■ コンセントや配線器具の定格を超える使いかたや、交流 100 V 以外での使用はしない



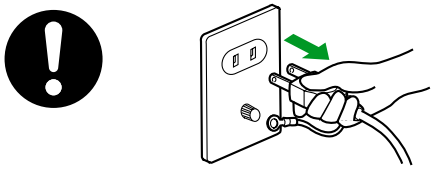
たこ足配線などで、定格を超えると、発熱による火災の原因になります。

■ 電源プラグは根元まで確実に差し込む

差し込みが不完全ですと、感電や発熱による火災の原因になります。

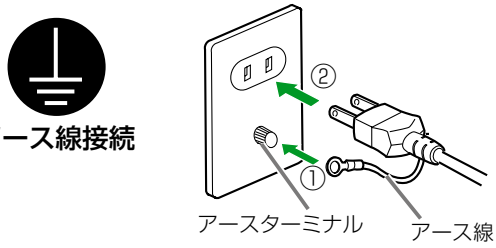
- 傷んだプラグ・ゆるんだコンセントは使用しないでください。

■ 電源コードを引っぱらず、電源プラグを持って抜く



- 電源コードを傷め、火災・感電の原因になります。

■ 必ず、アース線接続を行う

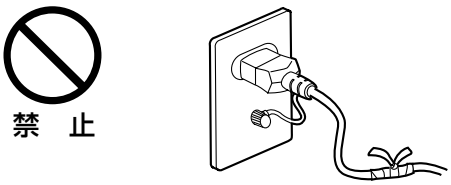


漏電した場合は、火災・感電の原因になります。

- アース線接続ができない場合は、お買い上げの販売店に相談してください。

■ 電源コード・電源プラグを破損するようなことはしない

傷つけたり、加工したり、高温部に近づけたり、無理に曲げたり、ねじったり、引っ張ったり、重い物を載せたり、束ねたりしない



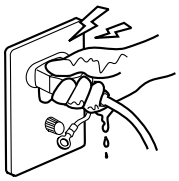
傷んだまま使用すると、感電・ショート・火災の原因になります。

- コードやプラグの修理は、お買い上げの販売店に相談してください。

安全上のご注意　必ずお守りください

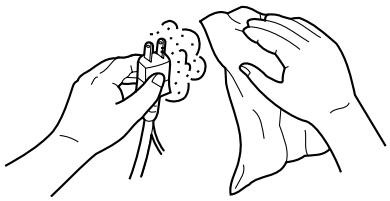
⚠警告

■ ぬれた手で、電源プラグの抜き差しはしない



感電の原因になります。

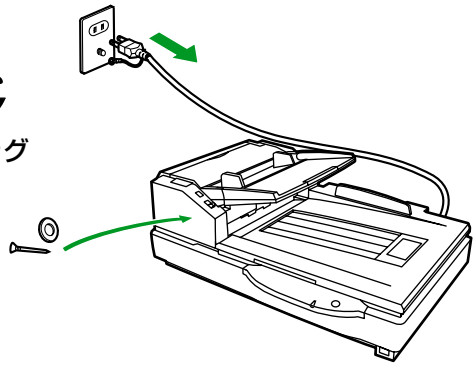
■ 電源プラグのほこりなどは定期的にとる



プラグにほこりなどがたまると、湿気などで絶縁不良となり、火災の原因になります。

- 電源プラグを抜き、乾いた布でふいてください。

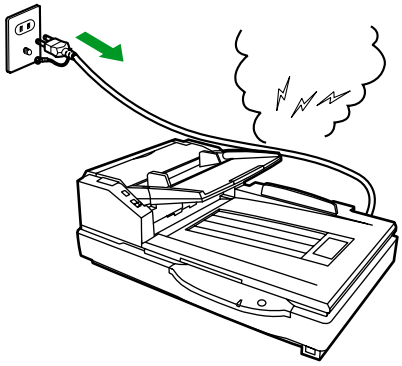
■ 異物（金属片・水・液体）が機器の内部に入った場合は、電源スイッチを切り電源プラグをコンセントから抜く



そのまま使用すると、火災・感電の原因になります。

- お買い上げの販売店に連絡してください。

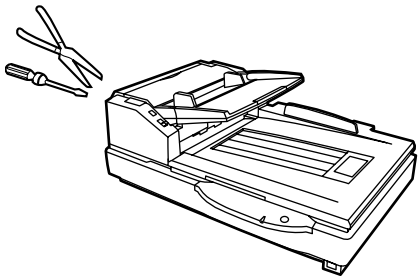
■ 異常（発熱・発煙・異臭・異音）が発生した場合は、すぐに電源スイッチを切り電源プラグをコンセントから抜く



そのまま使用すると、火災・感電の原因になります。

- お買い上げの販売店に連絡してください。

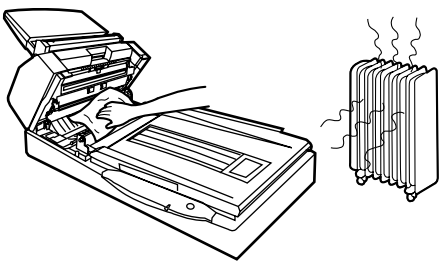
■ 絶対にカバーを外したり、分解・改造をしない



火災・感電の原因になります。

- 故障の場合は、電源スイッチを切り電源プラグを抜いて、お買い上げの販売店に修理を依頼してください。

■ ローラークリーニングペーパーは、火気の近くで使用しない



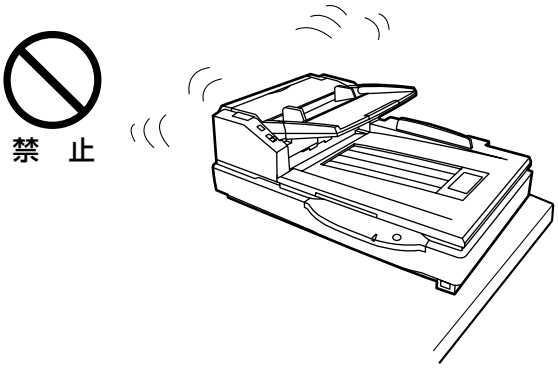
- 含まれたイソプロピルアルコールは揮発性のため、引火しやすく、火災の原因になります。

安全上のご注意

必ずお守りください

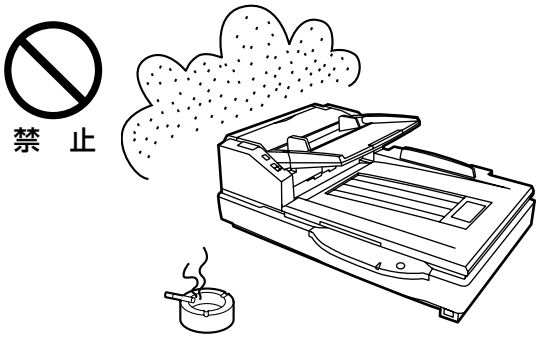
⚠注意

■ 不安定な場所に置かない



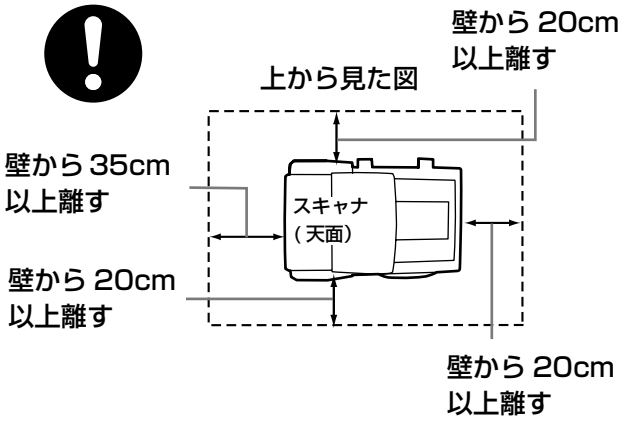
落ちて、けがの原因になることがあります。

■ 湿気やほこりの多い場所では使わない



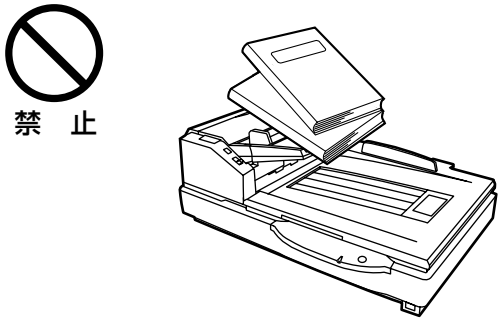
火災・感電の原因になることがあります。

■ 機器を壁から離す



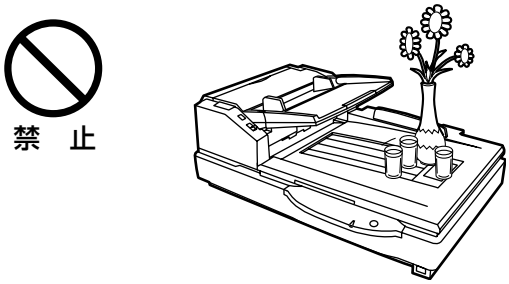
内部に熱がこもり、火災の原因になることがあります。

■ 機器の上に重いものを置かない



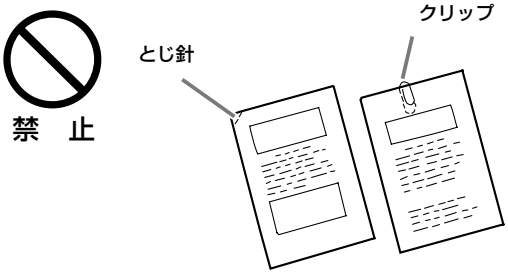
落ちて、けがの原因になることがあります。

■ 機器の上に花瓶・植木鉢・コップや水などの入った容器を置かない



水などがこぼれて機器にかかると、火災・感電の原因になることがあります。

■ クリップやとじ針の付いた原稿を読み込ませない



クリップやとじ針が機器の内部に落ちて、火災の原因になることがあります。

安全上のご注意

必ずお守りください

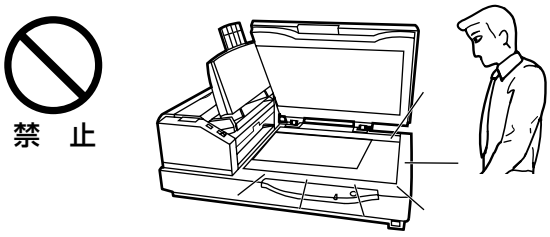
⚠注意

■ 落としたり、キャビネットを破損した場合は、電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜く

そのまま使用すると、火災・感電の原因になることがあります。

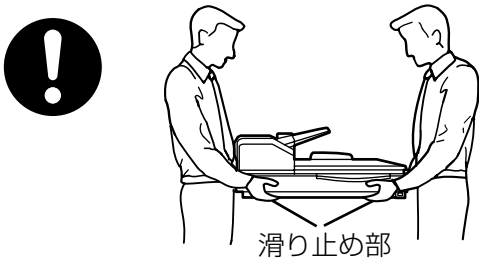
- お買い上げの販売店に連絡してください。

■ スキャナー内部のランプの光を見つめない



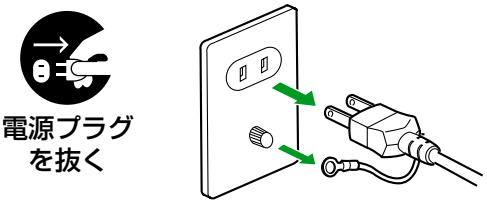
目や手の疲れや痛みの原因になることがあります。

■ 機器を移動させる場合、必ず２人以上で底面の滑り止め部をしっかりと持つ



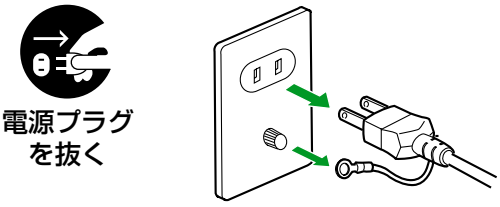
１人で持つと、落としてけがの原因になることがあります。

■ 機器を移動させる場合は、必ず電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜く



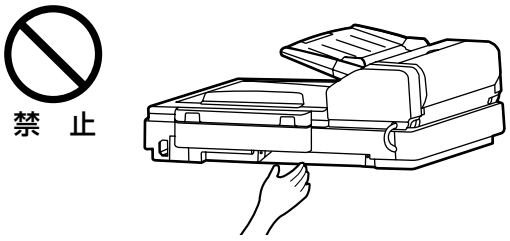
コードが傷つき、火災・感電の原因になることがあります。

■ 連休などで長期間使用しないときは、電源スイッチを切り電源プラグをコンセントから抜く



漏電により、火災の原因になることがあります。

■ インターフェース基板を外したとき、装置内に手を入れない



やけどや、けがの原因になることがあります。

安全上のご注意　必ずお守りください

⚠注意

■ フラットベッドに磁気インクを使用した原稿、磁気カードを長時間放置しない

フラットベッドシートに磁石が使用されていますので、データが消えることがあります。

■ ローラークリーニングペーパーに含まれた液体を吸い込んだり、飲んだりしない

人体に害をおよぼすおそれがあります。

- 換気のよいところで使用してください。
- 使用中に気分が悪くなった場合は直ちに使用を中止し、新鮮な空気の所で安静にし、医師の診察を受けてください。

■ ローラークリーニングペーパーを使うときは、保護手袋を使用する

皮膚の弱い人は、ローラークリーニングペーパーでかぶれるおそれがあります。

- 使用後は、石鹸でよく手を洗ってください。
- 誤って眼に入ったり、皮膚や顔についた場合は直ちに水で洗い、医師の診察を受けてください。

正しくお使いいただくためのお願い

■ **静電気の発生しやすいじゅうたんなどの上には置かないでください**
静電気が発生し、故障の原因になります。

■ **お手入れのときは、柔らかい乾いた布を使用してください**
研磨剤入りの洗剤やシンナー、ベンジンなどは使わないでください。
(変形、変色の原因になります。)

■ **ローラークリーニングペーパーは、乳幼児の手の届かないところに保管してください**

■ **ローラークリーニングペーパーは、40 ℃以上になる場所や直射日光の当たる場所には保管しないでください**
ペーパー内のアルコール分が蒸発し、クリーニング効果が低下することがあります。

■ **ローラークリーニングペーパーに関しての詳細を知りたい場合は、安全データシート（MSDS）などの資料をお買い上げの販売店にご請求ください**

■ **直射日光の当たる場所や冷暖房機の近くに置かないでください**
温度 30 ℃以上、15 ℃以下、および湿度 80 %以上、30 %以下は誤動作、変形、故障の原因になります。

■ **湿度の高いときや、寒い部屋から急に暖かい部屋に移動させた場合は、そのまま使用しないでください**
機器が結露することがあります。そのまま使用しますと原稿読み取りが不十分となりますので、内部のローラーを乾いた布でふき、暖かい部屋に 1 ～ 2 時間放置して、内部が乾いてからご使用ください。

■ **ローラークリーニングペーパーは、ローラー・読み取り部ガラスおよび基準板の清掃以外の目的には使用しないでください**

■ **大きな騒音を発生させる電気機器の近くには置かないでください**

CD-ROM の取り扱い

■ **CD-ROM の表裏に文字を書いたり、紙をはらないでください**
データが正常に読み取れなくなります。

■ **信号面に触れないでください。また、持つときは、指紋や傷がつかないように持ってください**
ラベルのない虹色の面は、データが書き込まれている信号面です。信号面が汚れると、データが正常に読み取れなくなります。

■ **長時間直射日光の当たるところや暖房機などの近くに放置しないでください**
CD-ROM が変形し、データが正常に読み取れなくなります。

■ **投げたり、曲げたりしないでください**
CD-ROM に傷がついたり、変形したりすると、データが正常に読み取れなくなります。

コピー（複製）に関する注意事項

コピーには、その目的や用途により、コピーを作成することが法律で禁止・制限されているものや、そのコピーを所有するだけで罰せられるものもあります。
本機のご使用に際しては、以下の事項に十分ご注意ください。

1. 法律でコピーを禁止されているもの

1）紙幣、貨幣、政府発行の有価証券、国債証券、地方債証券。
2）未使用の郵便切手、官製ハガキ。
3）政府発行の印紙、酒税法や物品税法で規定されている証紙類。

（関係法律）

- 通貨及証券模造取締法
- 外国ニ於テ流通スル貨幣紙幣銀行券証券偽造変造及模造ニ関スル法律
- 郵便切手類模造等取締法
- 紙幣類似証券取締法
- 印紙等模造取締法

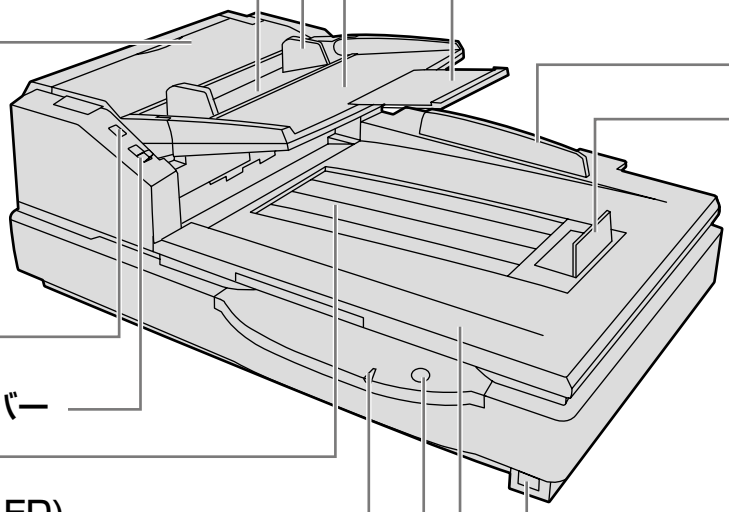
2. 法律でコピーが制限されているもの

著作権の目的となっている書籍、絵画、地図、図面、楽譜などの著作物は、個人的または家庭内、その他これに準ずる限られた範囲内で使用するためのコピーを除き、権利者に無断でコピーすることが禁じられています。

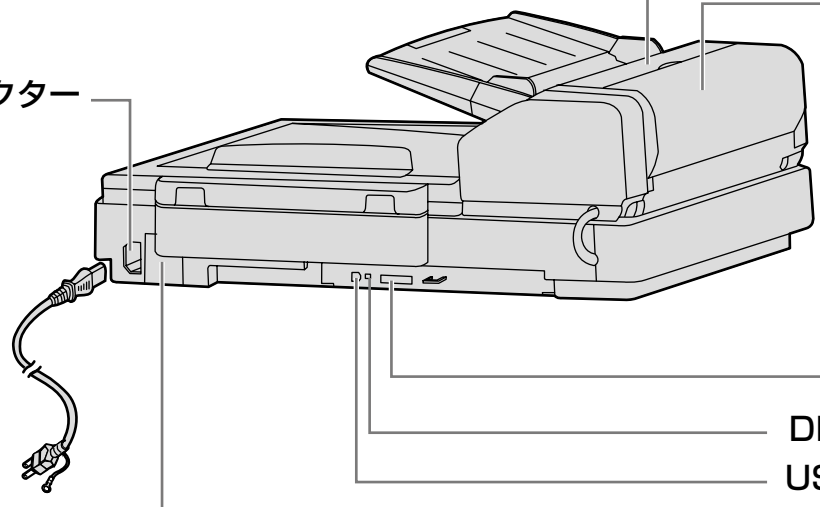
3. その他注意を要するもの

手形、小切手、株券などの民間発行の有価証券のコピーは、事業会社が自己の業務に供するために必要な社内利用の範囲にとどめ、その出力物の取り扱いには十分ご注意くださいますようお願い申し上げます。

各部のなまえとはたらき

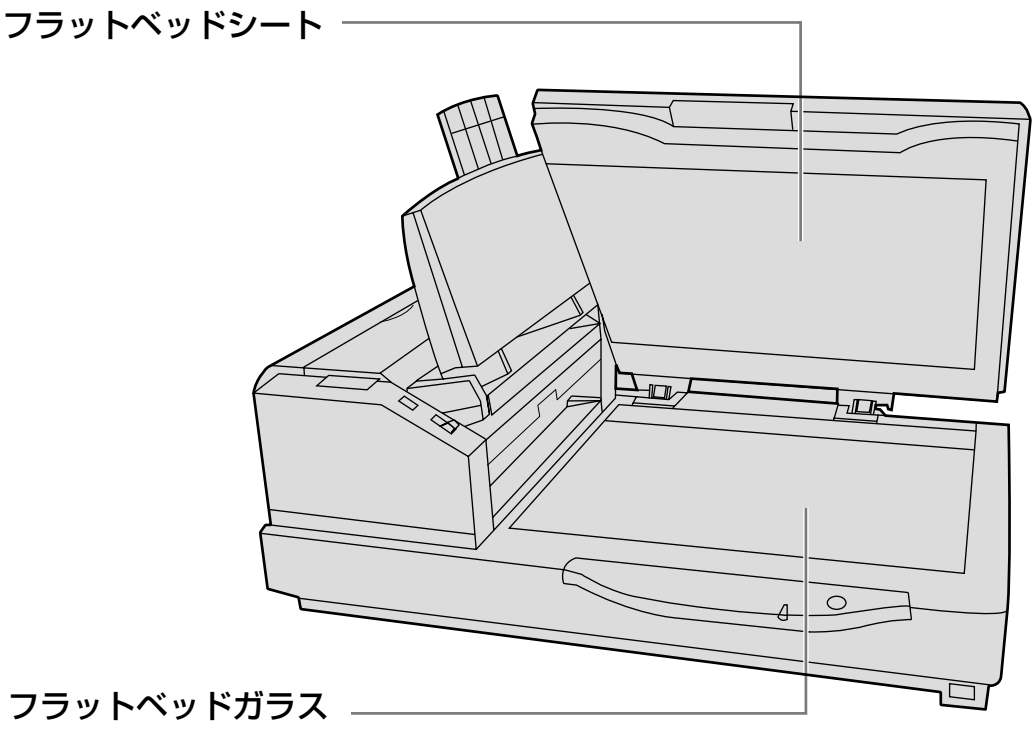


原稿ガイド
ホッパー
ADF ドア
ホッパートレイ
ホッパー延長トレイ
後面ストッパー
排紙ストッパー
ADF ドア
開閉ボタン
手差し切替レバー
排紙トレイ
電源ランプ（LED）
スキャナーの電源を入れると、緑色の LED が点灯します。
エラー発生時、LED は赤色に変化し、点灯あるいは点滅します。
電源スイッチ
原稿カバー
STOP/START ボタン
原稿読み取りの停止と開始に使用します。

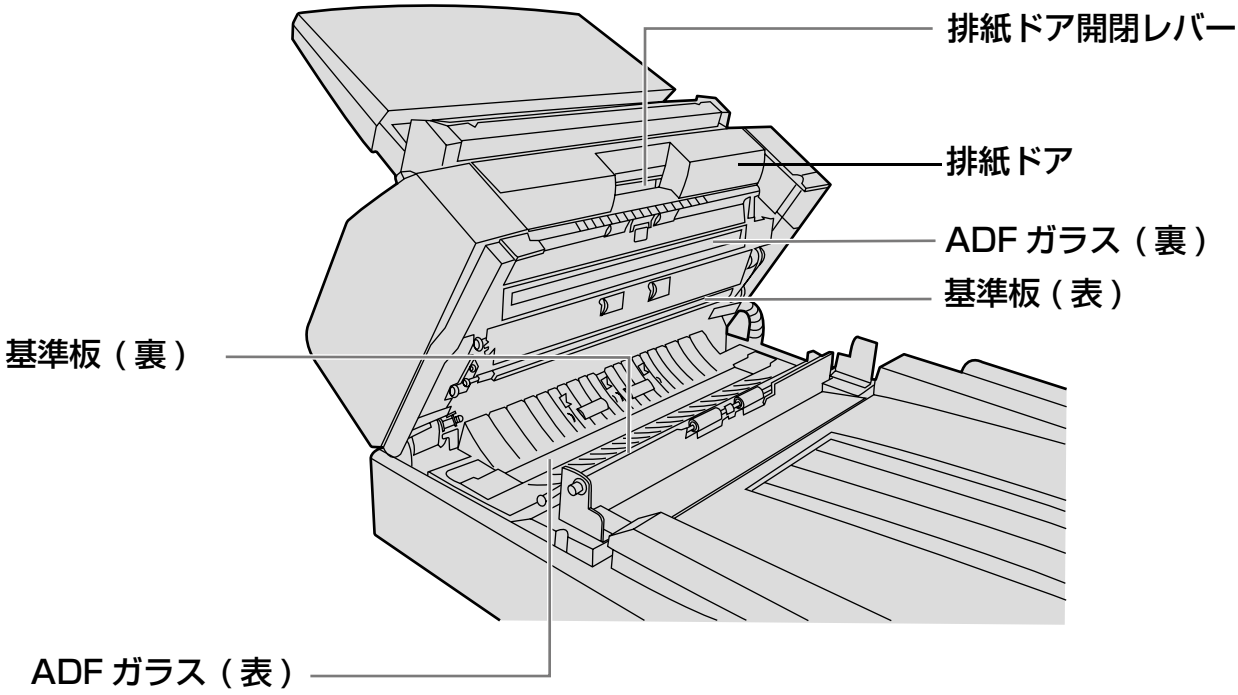


上カバー
インプリンタードア
電源用コネクター
電源コード
SCSI コネクター
DIP スイッチ
USB コネクター
ファン排気口

原稿カバーを開けたところ

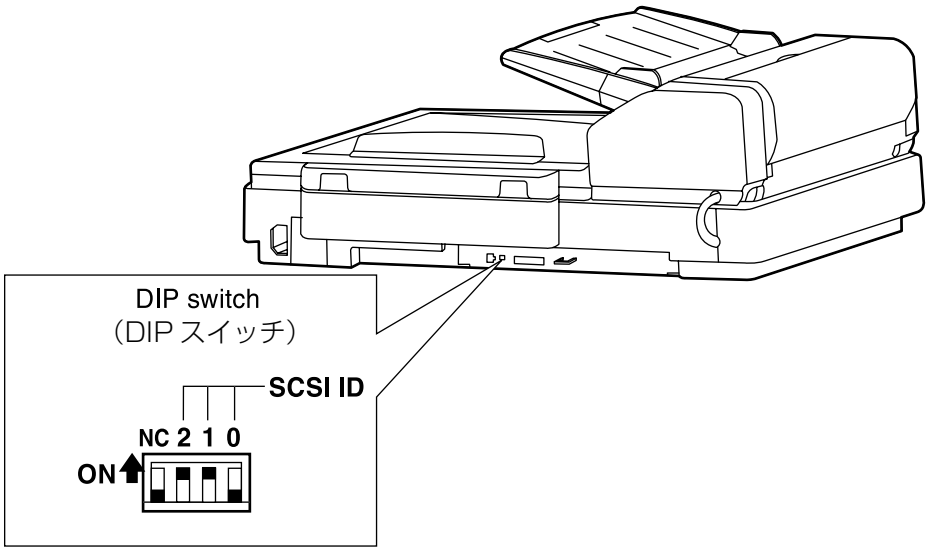


ADF を開けたところ



■ DIP スイッチについて（SCSI 設定方法）

コンピューターとの接続に SCSI を使用するためには SCSI の設定を正しく行うことが必要です。
本製品では、DIP スイッチにより、SCSI ID の設定を行います。
※ USB インターフェース接続時は設定不要です。



SCSI ID の設定

ID No.	スイッチ			備　考
	#2	#1	#0	
0	OFF	OFF	OFF	
1	OFF	OFF	ON	
2	OFF	ON	OFF	
3	OFF	ON	ON	
4	ON	OFF	OFF	
5	ON	OFF	ON	
6	ON	ON	OFF	出荷時の設定値
7	ON	ON	ON	

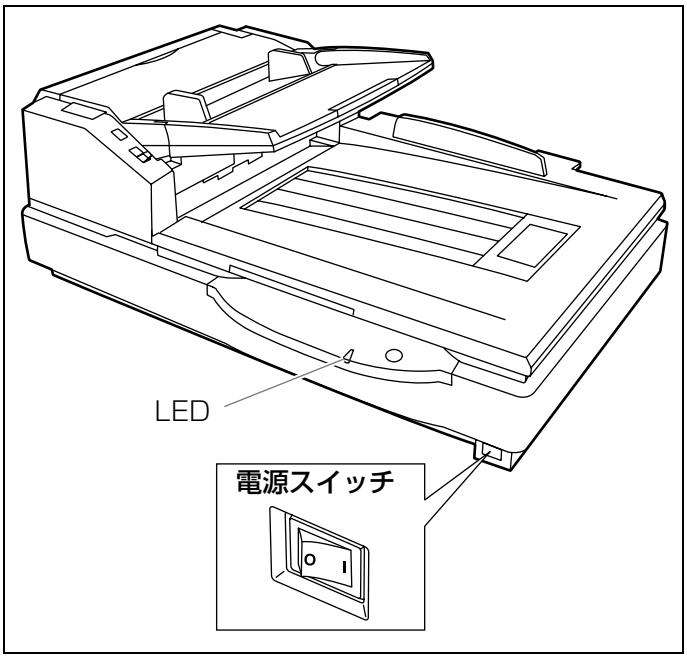
■ 電源スイッチ（電源を入れる）

1 スキャナーの電源を入れます。

- **LED が点灯します。**

2 スキャナーの LED が緑になったあと、コンピューターの電源を入れます。

- **USBインターフェース接続時は、コンピューターの電源をONのままスキャナーの電源をON にしても使用できます。スキャナーの電源 ON 後、コンピューターがスキャナーを自動的に認識します。**



■ LED について

LED は下表のようにスキャナーの状態を示します。

LED	スキャナーの状態
緑	待機中、スキャン中
緑（点滅）	省電力モード
橙	待機中、スキャン中（警告あり）※ 1
橙（点滅）	初期化中、省電力モード（警告あり）※ 1
赤	エラー発生時 ※ 2

※ 1: ローラーを清掃または交換する必要があります。
ローラーの清掃や交換方法については取扱説明書（CD-ROM）やメンテナンスマニュアルをご参照ください。

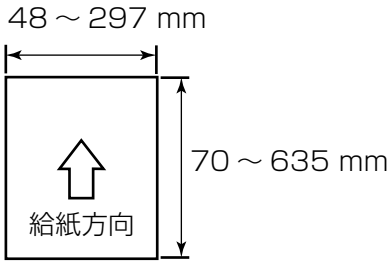
※ 1, ※ 2: 警告、エラーの内容はユーザーユーティリティーで確認してください。
ユーザーユーティリティーは CD-ROM に搭載されています。

ADF で原稿を読み取る

ADF（Automatic Document Feeder）とは自動給紙のことで、枚数の多い原稿などを読み取るときに便利です。原稿の読み取りは、コンピューターからの指示によって行われます。

■ ADF 読み取り時のお願い

- 本機で読み取り可能な原稿は以下の通りです。
  1. 原稿のサイズ：

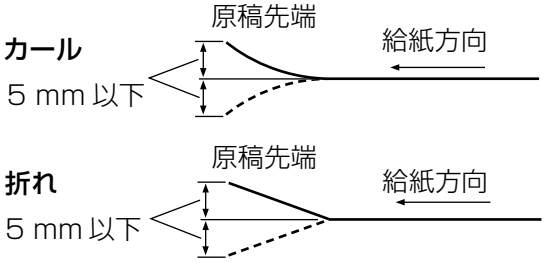


  2. 原稿の紙厚とホッパーにセットできる枚数
     ADF で読み取る場合は坪量 40 ～ 127g/m^2 です。（紙厚換算は以下の表を参照ください。）
     ホッパーに原稿をセットできる枚数は以下の表の通りです。最大量表示位置を超えないようにセットしてください。

紙厚換算	g/m^2（坪量）	40	52	64	75	80	90	104	127
枚数		320	260	200	170	160	140	120	100

  3. 原稿の種類
     推奨できる原稿の種類は以下の通りです。
     ・上質紙　　・普通紙（PPC）

- 注意事項
  1. 以下の原稿は ADF 読み取りでうまく読み取れない場合があります。
     ・破れたり、周辺にきざみのある原稿
     ・カール、しわや折り目のある原稿
     カール、折れ量は右図以下でなければうまく読み取れない（紙詰まり）場合があります。カールや折れをまっすぐ伸ばして読み取ってください。
     ・端辺にミシン目や穴のある原稿
     ・四角以外の異形原稿
     ・トレーシングペーパー
     ・感熱紙



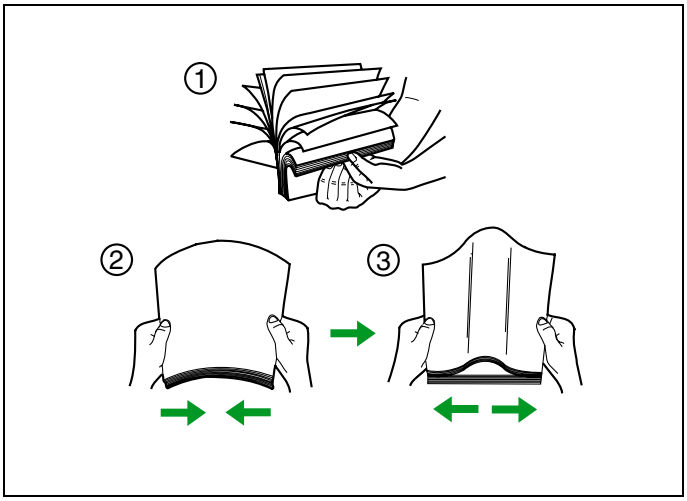
     うまく読み取れない場合は以下の方法で読み取ってください。
     ・読み取り速度を「テイソク」にする。
     ・手差し読み取り（手差し切替レバーを MANUAL にする）にして 1 枚ずつ読み取る。
     ・フラットベッドで読み取る。
  2. 以下の原稿は、表面に化学的な処理などが施されていますので、頻繁に重送や紙詰まりが発生する場合があります。
     ・コーティングされた原稿や写真　　・カーボン付原稿　　・ノーカーボン原稿
     重送や紙詰まりが発生する場合はローラーを清掃してください。（☞ 29 ページ）
     給紙口付近で原稿が詰まった場合、ホッパーにセットする原稿の枚数を 20 枚程度に減らしてください。
  3. 以下の原稿は、使用しないでください。
     ・OHP シート、プラスチックフィルム、布地または金属シートなど
     ・クリップ、とじ針、のりの付いた原稿
     ・インク、朱肉などが乾ききっていない原稿
     ・封筒、切り貼りした原稿など、紙の厚さが不均一なもの
  4. 原稿カバー上に排出された原稿は、その都度取り除いてください。
  5. 異なるサイズの原稿を同時に読み取る場合は、排出された原稿がバラけて順番通りに並ばないことがあります。
  6. 厚紙・薄紙・重要書類は、フラットベッドで読み取るか、手差し読み取り（手差し切替レバーを MANUAL にする）にして 1 枚ずつ読み取ってください。

■ 原稿を連続して読み取る場合

1 とじ針でとじられていた原稿やファイルされていた原稿は、重送などの防止のため、セットする前によくさばいておく必要があります。

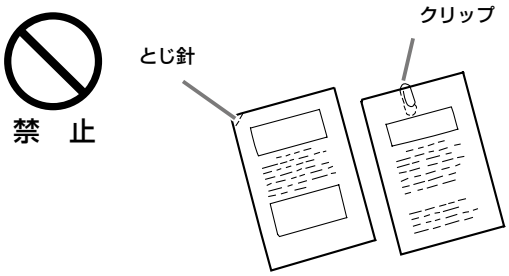
1 原稿の各端をさばいて密着している束状の原稿を分離します。
2 原稿の両端を持って、図のように曲げます。
3 原稿をしっかりとつかんで図のように両側へ引っ張り、中央部に波状のふくらみを作って分離します。

• 上記の手順を必要に応じて繰り返します。



⚠注意

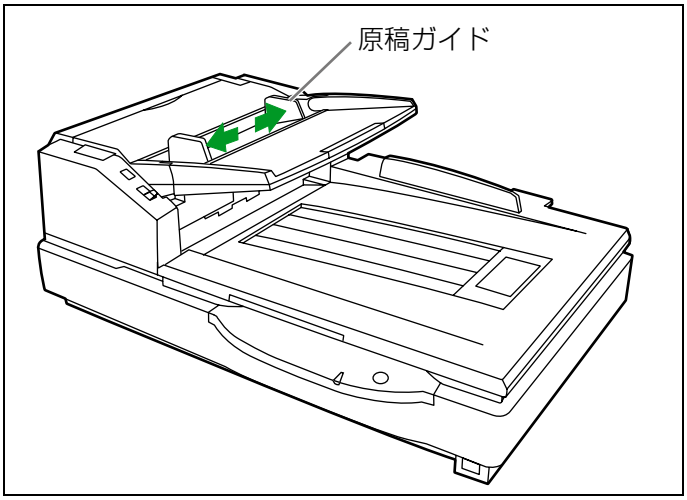
■ クリップやとじ針の付いた原稿を読み込ませない



クリップやとじ針が機器の内部に落ちて、火災の原因になることがあります。

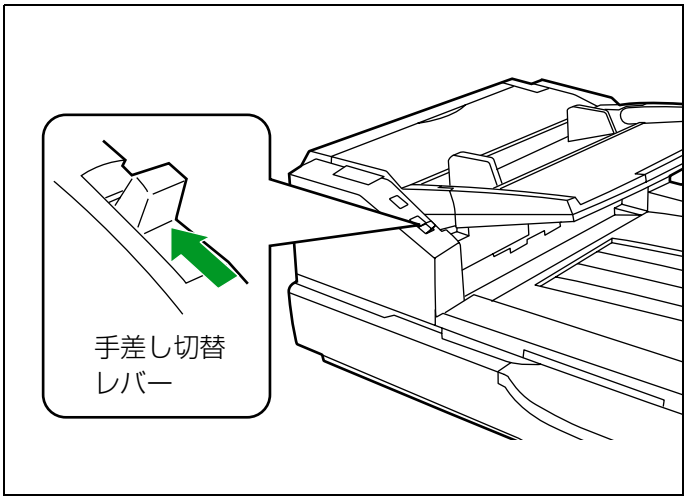
2 原稿をきちんとそろえます。

3 原稿ガイドをセットする原稿サイズよりやや広めの位置に合わせます。



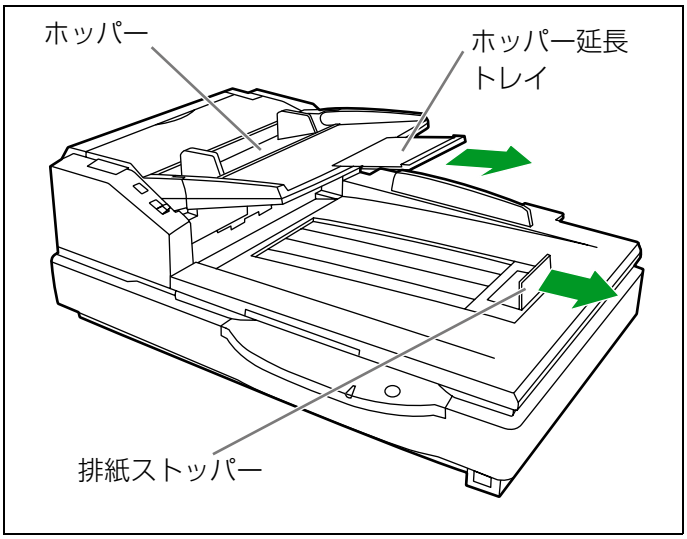
ADF で原稿を読み取る

4 手差し切替レバーを「AUTO」にセットします。



5 【縦長の原稿をセットする場合】
（ホッパーから原稿がはみ出す場合）

1 ホッパー延長トレイをホッパーから引き出します。
2 排紙ストッパーを、原稿よりやや長めの位置まで矢印方向に持ち上げてスライドさせて合わせます。



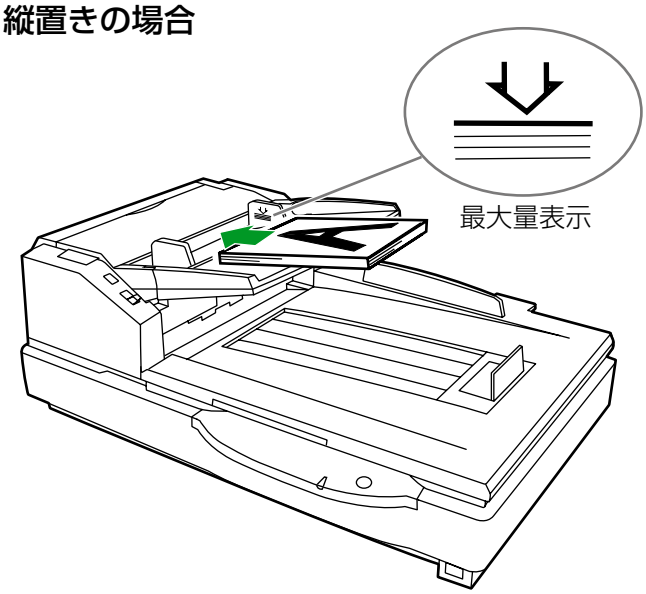
6 読み取る面を上向きにして、ホッパーに原稿をのせ、矢印方向に止まるまで挿入します。

- **ホッパーに一度に載せられる原稿枚数は、約 200 枚（紙厚 64g ／ m^2）です。**

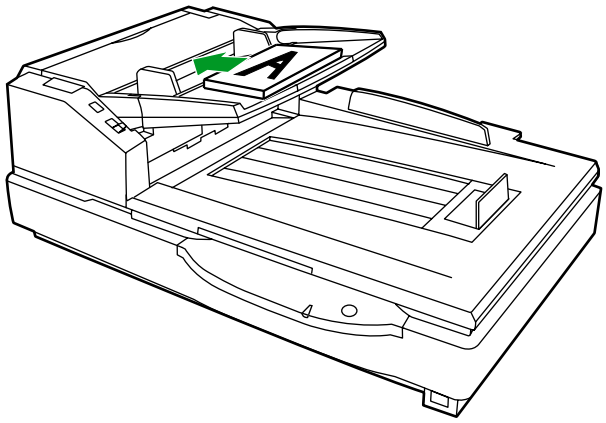
お 願 い

- **原稿は、原稿ガイドにある最大量表示位置（右図参照）を超えないようにセットしてください。（最大量を超えると、紙づまりや原稿の斜め読みの原因になります）**

縦置きの場合



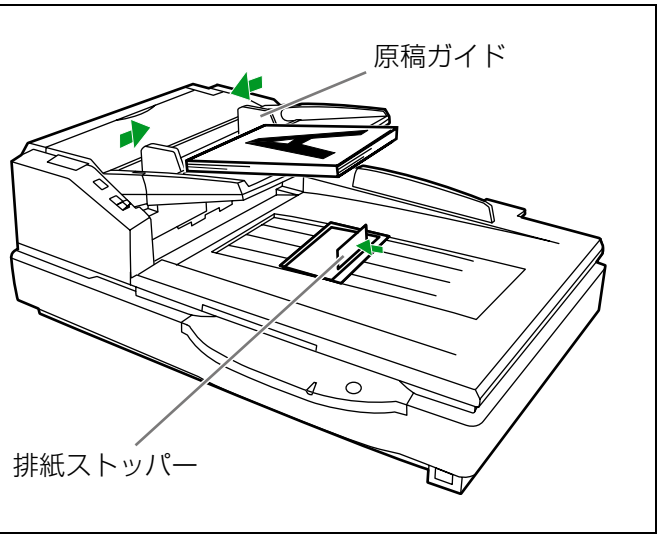
横置きの場合



7 原稿ガイドを矢印方向に寄せ、原稿の幅に合わせます。
排紙ストッパーを原稿の縦幅に合わせてスライドさせます。

お 願 い

- **原稿の縦幅が 420 mm （A3 サイズ）または 432 mm（17 インチ）と 635mm（25 インチ）の間の原稿を読み取る場合、排紙ストッパーを閉じます。**



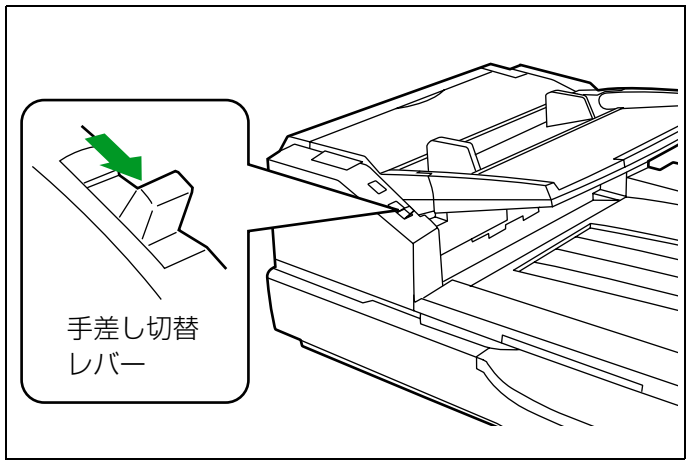
原稿を手差しで読み取る（複葉紙などの読み取り）

複葉紙のように数枚一組となった原稿を ADF で読み取るときは、手差し切替レバーを「MANUAL」にセットして一組ずつ読み取ります。

お 願 い

- クリップやとじ針で綴じられた原稿は使用しないでください。
- 天のりがはがれていたり、周辺が破れている原稿は、フラットベッドで読み取ってください。（ADF で読み取ると、原稿が破れたりして、紙づまりの原因になります）

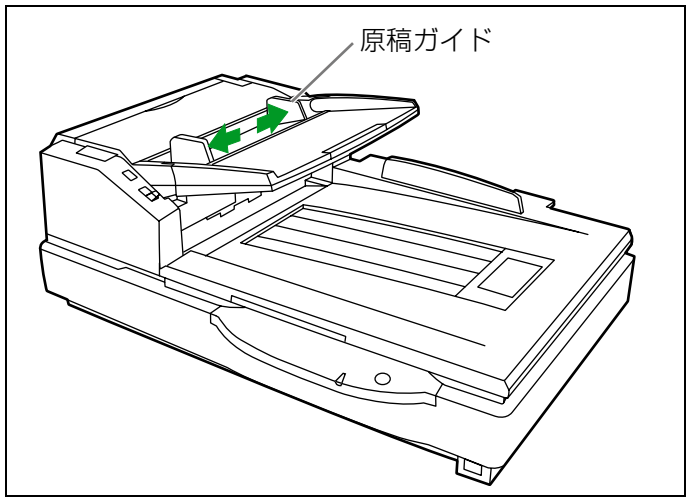
1 手差し切替レバーを「MANUAL」にセットします。



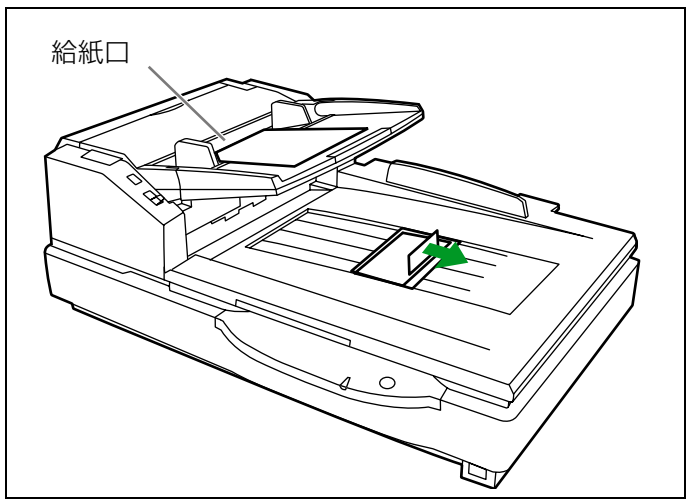
2 原稿ガイドを、セットする原稿のサイズに合わせます。

3 給紙口に原稿を１枚ずつセットします。

4 原稿ガイドがセットする原稿のサイズにあっていない場合、原稿ガイドを原稿の幅に合わせます。



5 排紙ストッパーを原稿の縦幅にスライドさせて合わせます。



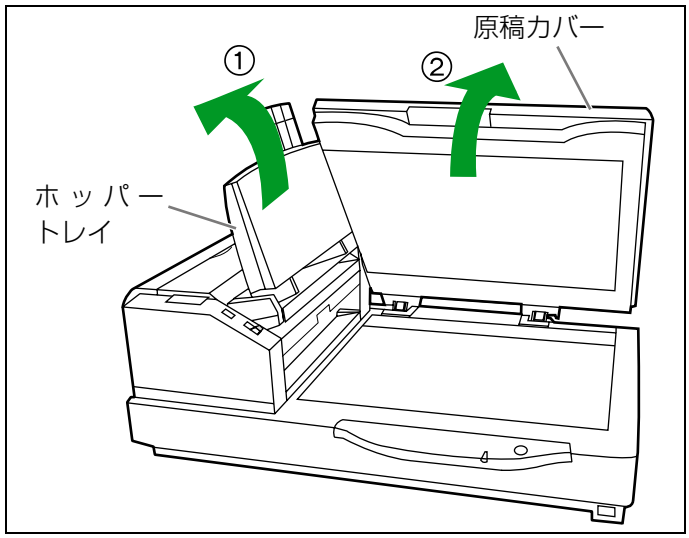
フラットベッドで原稿を読み取る

本などのように分厚い原稿は、フラットベッドガラスに載せて読み取ります。

■ フラットベッドで原稿を読み取る場合

1 ホッパートレイを上げます。

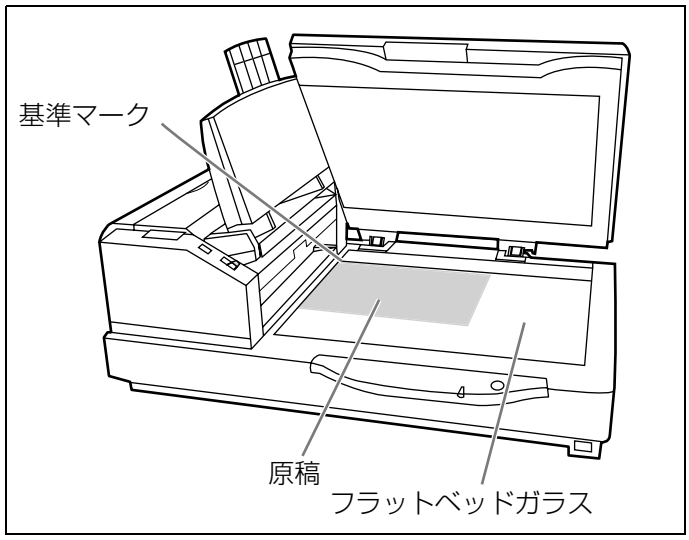
2 原稿カバーを開けます。



お 願 い

- **必ずホッパートレイを上げてから原稿カバーを開けてください。(ホッパーが壊れるおそれがあります)**

3 読み取り面を下向きにして、フラットベッドガラスの左上隅に原稿をセットします。

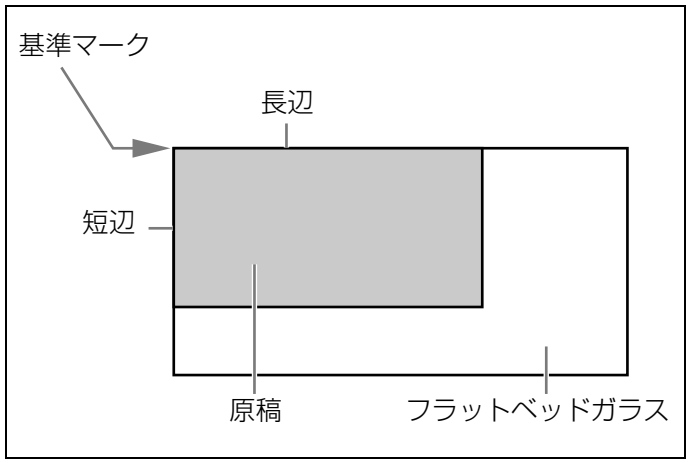


お 願 い

- **折れ曲がった紙・しわや巻ぐせのある紙は、セットする前にまっすぐ伸ばしてください。**

4 原稿の短辺をフラットベッドガラスの左端にきちんと合わせます。

5 原稿の長さを基準マークに合わせます。

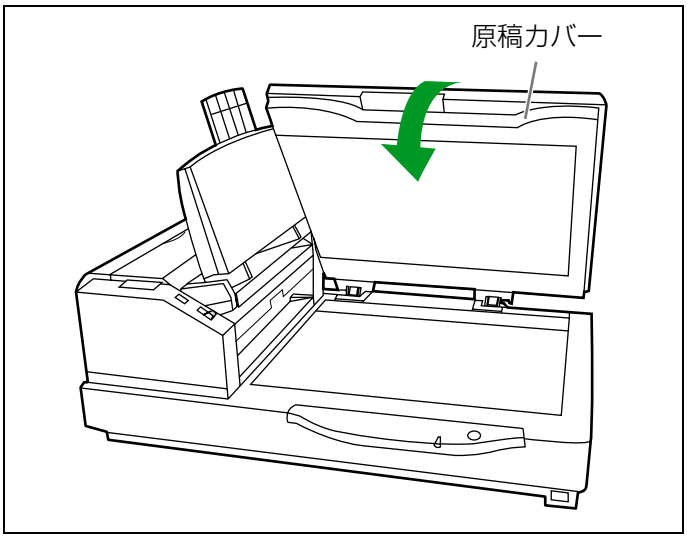


お 願 い

- **フラットベッドガラスに対して原稿を斜めにセットしないでください。正しく読み取れません。**

フラットベッドで原稿を読み取る

6 原稿カバーをゆっくり閉めます。



お 願 い

- 読み取り開始前に、必ず原稿カバーを閉めてください。
- 原稿カバーは勢いよく開閉しないでください。また、読み取り中は原稿カバーを開閉しないでください。（セットした原稿が動いて、正しく読み取れないことがあります）
- 読み取りが終わったら、原稿カバーを開けて原稿を取り除いてください。

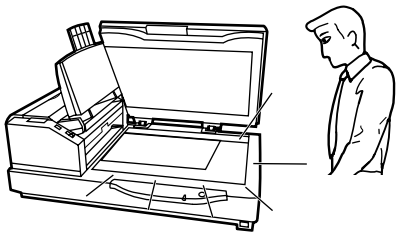
分厚い原稿を読み取るときのお願い

- フラットベッドガラスに触れてない部分は、正しく読み取れません。
- 読み取り中に原稿を動かさないでください。

⚠注意

■ スキャナー内部のランプの光を見つめないでください

禁 止



目の疲れや痛みの原因になることがあります。

⚠注意

■ フラットベッドに磁気インクを使用した原稿、磁気カードを長時間放置しない

禁 止

フラットベッドシートに磁石が使用されていますので、データが消えることがあります。

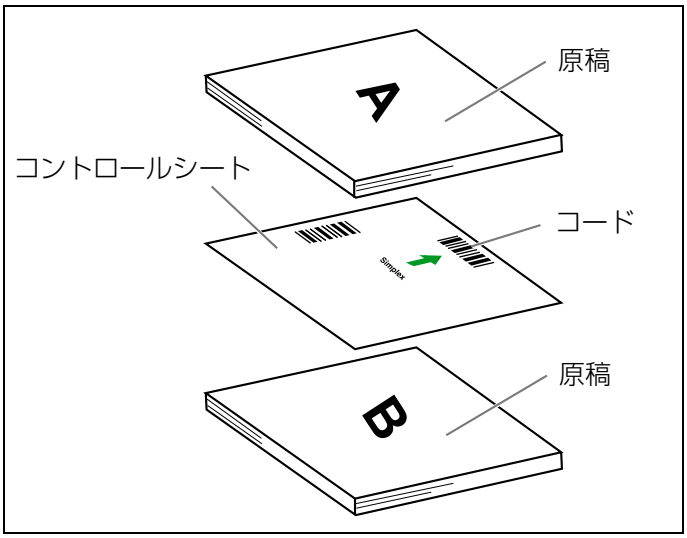
■ フラットベッドで繰り返し原稿を読み取る場合

- ホッパートレイは上げたまま、原稿カバーのみの開閉を行ってください。

コントロールシートを使う

付属のコントロールシートを使うと、タイプの異なる原稿を同時に読み取ることができます。この場合、コントロールシートの下にセットされた原稿は、あらかじめ設定された読み取り条件にかかわらず、コントロールシートに記載されているコードの条件によって読み取られます。

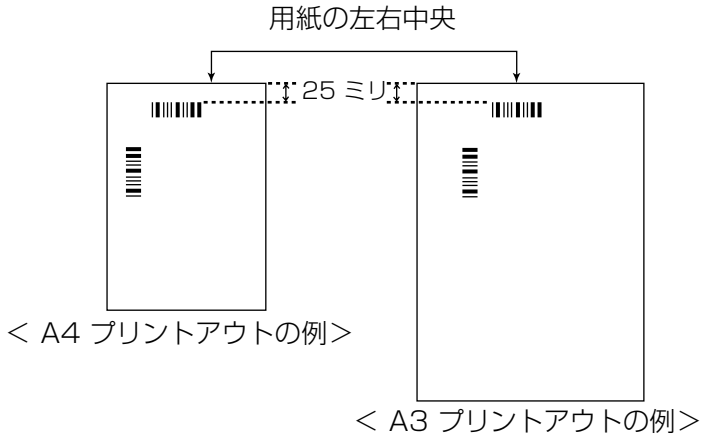
- **複数枚のコントロールシートが同時に使用できます。**
- **コントロールシートを使用するには、ご使用のアプリケーションソフトがコントロールシートに対応している必要があります。**
- **コントロールシートは、付属の CD － ROM よりプリントアウトして使用ください。**



お 願 い

＜コントロールシートの取扱いについて＞

- プリントアウトの際は次のことに注意してください。
  - ・拡大／縮小をせずに、指定のサイズの紙にプリントアウトしてください。
  - ・プリントアウト後のパターンが用紙の上端から 25 ミリ、左右中央の位置にくるように調整してください。



＜ A4 プリントアウトの例＞

＜ A3 プリントアウトの例＞

- ・読み取りの際は、読み取り原稿と同じサイズのものを使用してください。
- ・汚したり、折り曲げたり、しわにならないようにしてください。
  正しく読み取ることができなくなります。

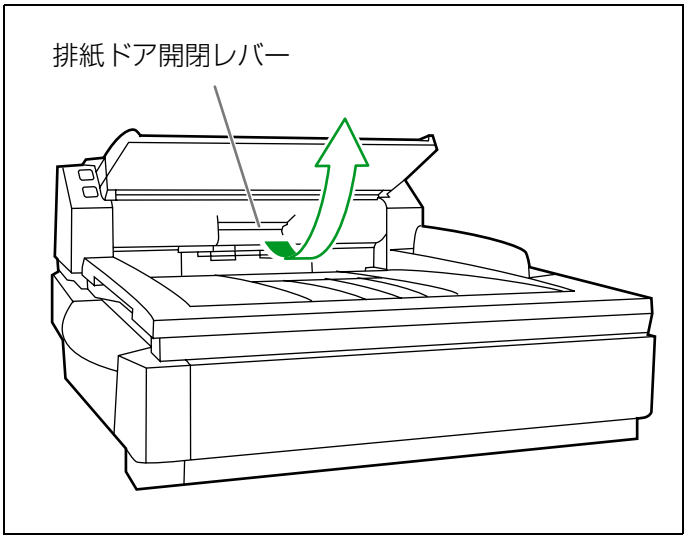
基準板の設定を変える

本機は読み取りの背景を白または黒のいずれかに選択することができます。工場出荷時は黒に設定されています。基準板（裏）、基準板（表）とフラットベッドシートを同時に変更する必要があります。

■ ADF を使用する場合

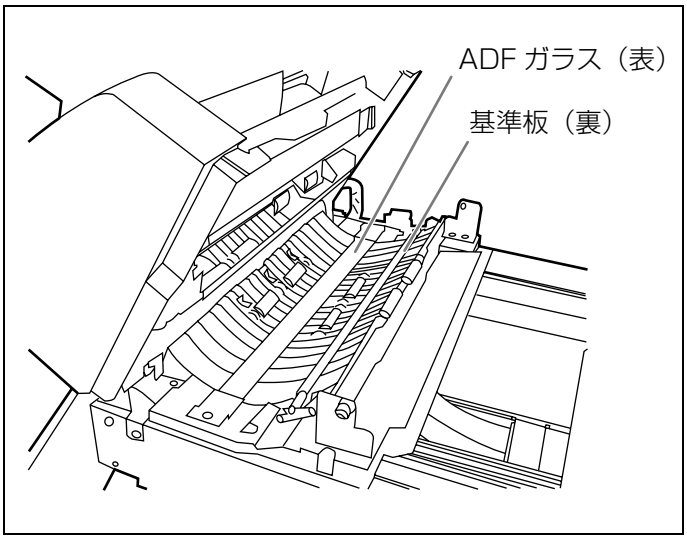
1 スキャナーの電源を切ります。

2 排紙ドア開閉レバーを引いて排紙ドアを開けます。



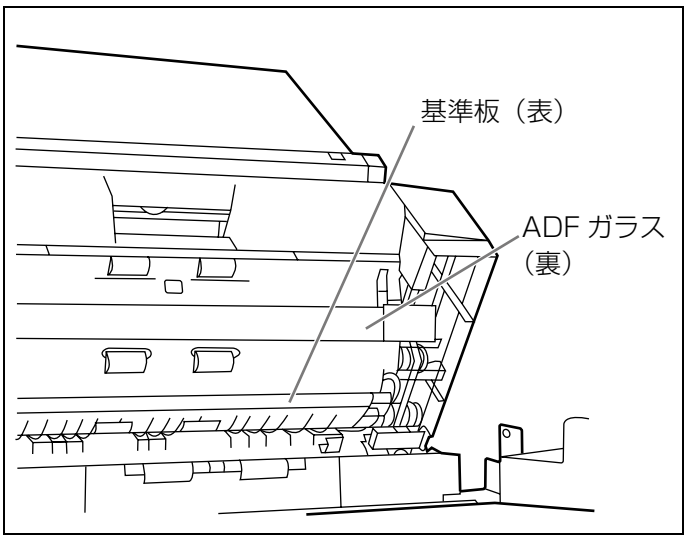
3 基準板（裏）を反転させます。

- **基準板が確実に反転して固定されていることを確認してください。**



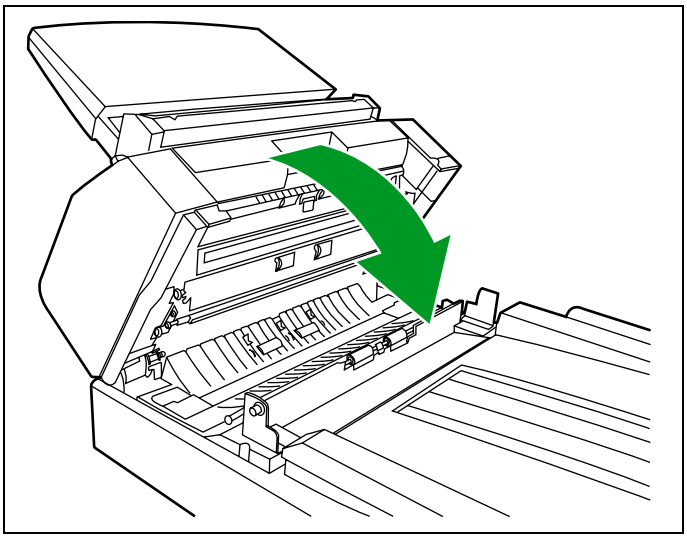
4 基準板（表）を反転させます。

- **基準板が確実に反転して固定されていることを確認してください。**



5 排紙ドアを閉めます。

- **「カチッ」と音がするまで、ゆっくり確実に閉めてください。**

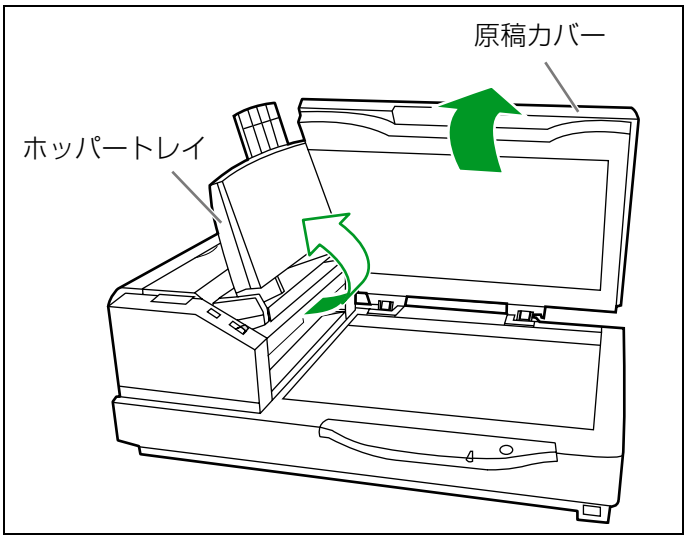


■ フラットベッドを使用する場合

1 スキャナーの電源を切ります。

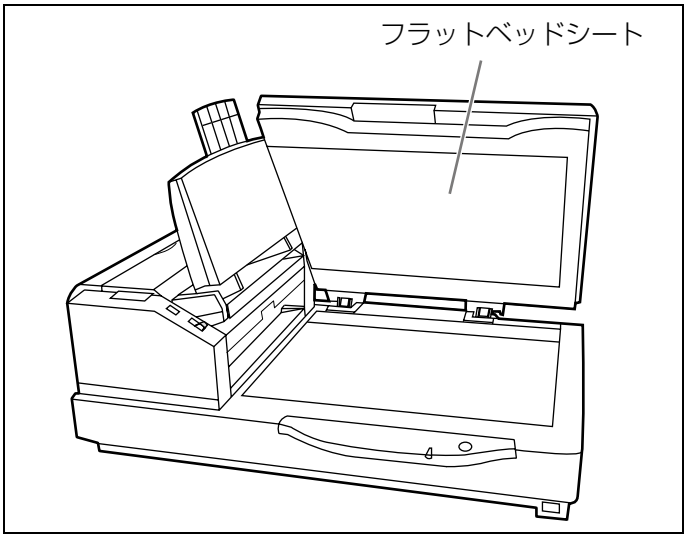
2 ホッパートレイを矢印の方向に上げます。

3 原稿カバーを開けます。



4 フラットベッドシートを取り外し、表・裏を反転させて再度元の位置に取り付けます。

- **フラットベッドシートは磁石で原稿カバーに取り付けられています。**
- **フラットベッドシートは左寄りに取り付けてください。**

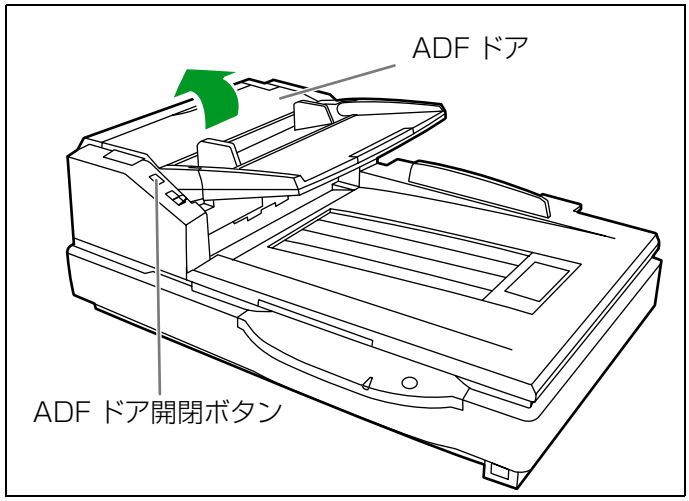


原稿が詰まったとき

先端が折れ曲がっていたり、破れている原稿、薄い紙の原稿などは、ADF 読み取り時に原稿詰まりの原因になります。原稿が詰まった場合は、下記の手順で詰まった原稿を取り除いてください。

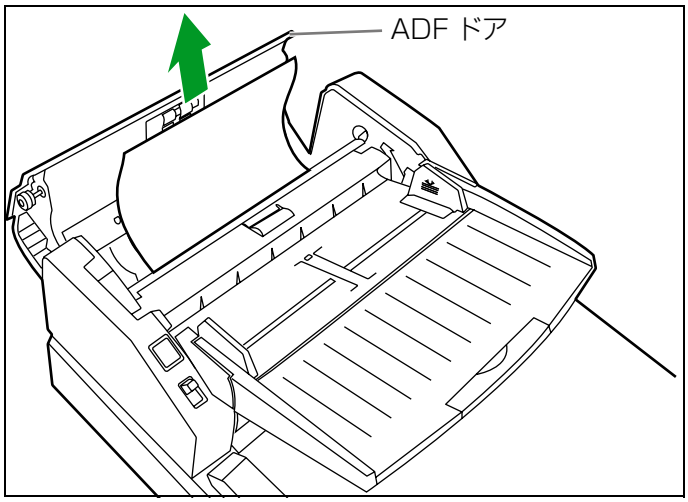
■給紙口付近で原稿が詰まっている場合

1 ADF ドア開閉ボタンを押し、ADF ドアを開けます。



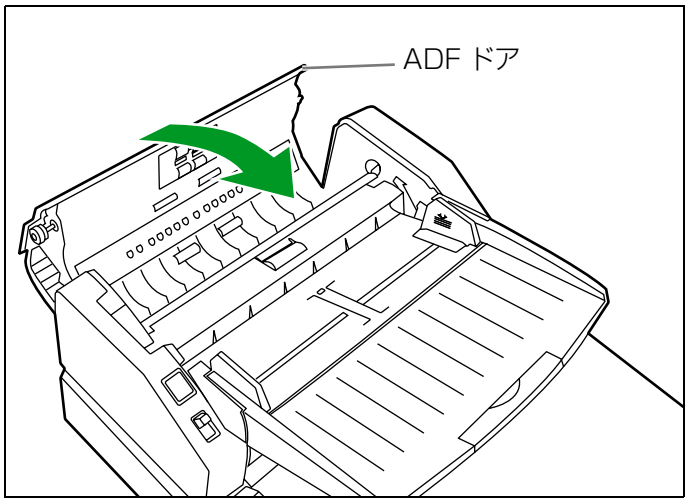
2 詰まった原稿を矢印方向に引き出します。

- **詰まった原稿が取り除けないときは，排紙口から取り除いてください。**
- **詰まった原稿の後端が少しだけ見えているときは、ADF ドアを閉じないで排紙ドアを開けて詰まった原稿を取り除いてください。ADF ドアを閉じると原稿を傷つける場合があります。**



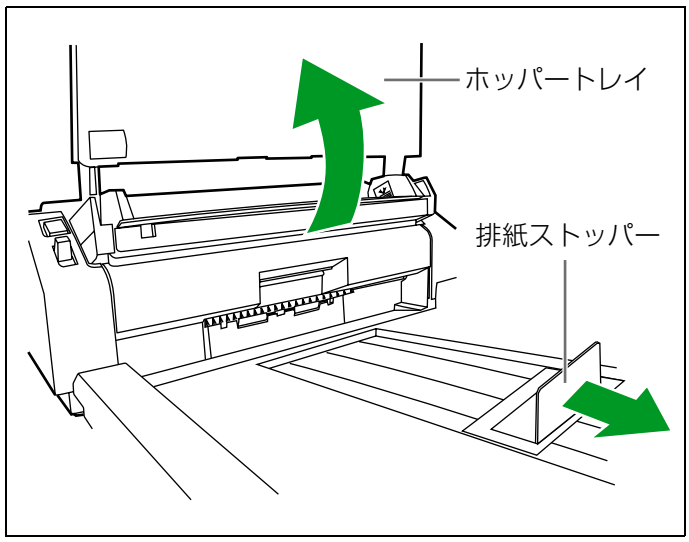
3 ADF ドアを閉めます。

- **「カチッ」と音がするまで、ゆっくり確実に閉めてください。**



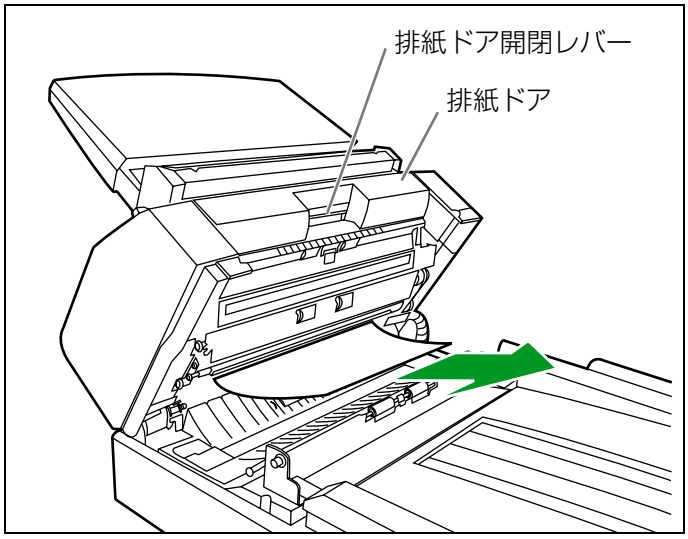
■排紙口付近で原稿が詰まっている場合

1 排紙ストッパーを矢印方向にスライドさせ、ホッパートレイを上げます。



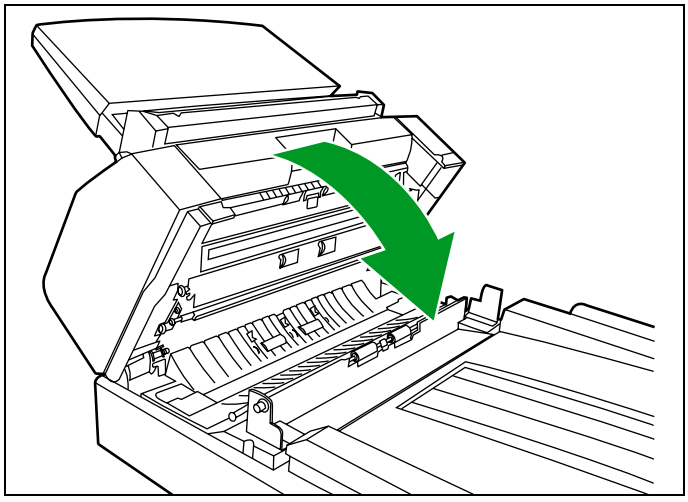
2 排紙ドア開閉レバーを引いて排紙ドアを開け、詰まった原稿を矢印方向に引き出します。

- **詰まった原稿が取り除けないときは，給紙口から取り除いてください。**



3 排紙ドアを閉めます。

- **「カチッ」と音がするまで、ゆっくり確実に閉めてください。**



お手入れについて

■外側の清掃

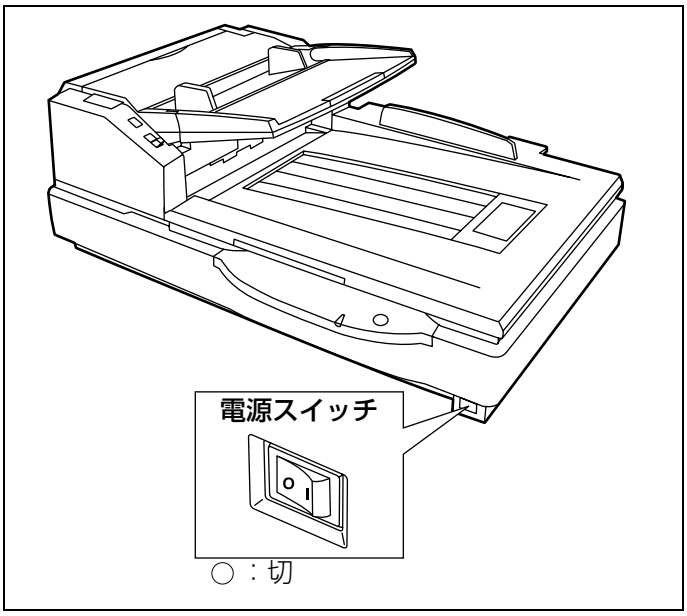
1ヵ月に一度、以下の手順で行ってください。

1 電源スイッチを「○」（切）にします。

2 柔らかい布で本機の外側をふきます。

- **給紙口や排紙口（ホッパーの下）付近の汚れもふき取ってください。**

3 ブラシでファン排気口の汚れやほこりを取り除きます。



■内側（読み取り部）の清掃

少なくとも週に一度、または 2 万枚読み取り後のいずれか早い時期に清掃してください。

原稿づまりまたは重送が頻繁に発生する場合：

- ローラー・原稿センサー・重送検知（発振）、重送検知（受信）を清掃してください。（☞ 29 ～ 35 ページ）

読み取り画像に黒または白い線が出る場合：

- ADF ガラス・基準板を清掃してください。（☞ 33 ページ）

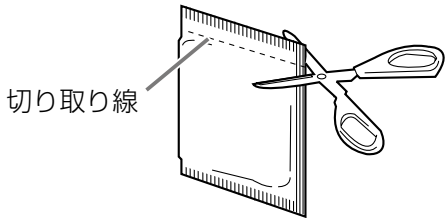
フラットベッドでの読み取り時に黒点や白傷が付く場合：

- 原稿カバーを開けて、ローラークリーニングペーパーでフラットベッドガラスおよびカバーシートを清掃してください。（☞ 36 ページ）

読み取り部の汚れは、読み取る原稿によっても異なります。
安定した読み取りを行うために、こまめに清掃してください。

ローラークリーニングペーパーの取り扱いについて

ローラークリーニングペーパーは、下図のように切り取り線をはさみなどで切って、袋から取り出してください。



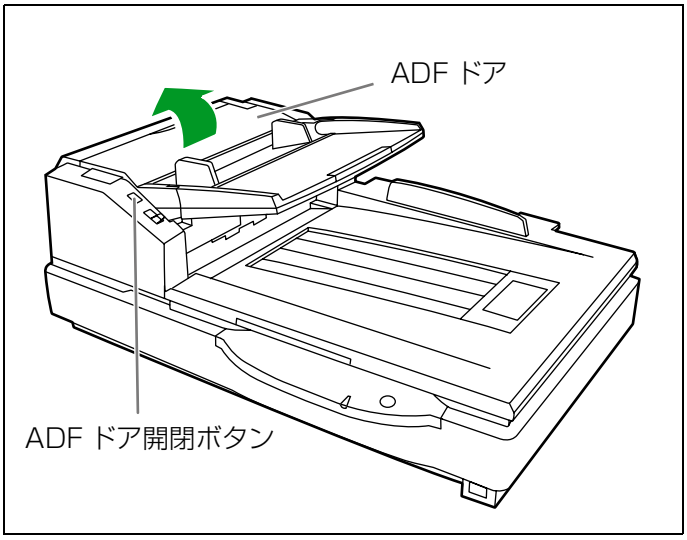
お 願 い

- **開封後は、すぐに使用してください。（袋の中に入れたまま長時間放置すると、ペーパー内のアルコール分が蒸発し、クリーニング効果がなくなります）**
- **ローラークリーニングペーパーは、本機をお買い上げの販売店でお求めください。（別売品品番：KV-SS03NA）**

■ 給紙ローラー・分離ローラー・リタードローラーの清掃

1 電源スイッチを「○」（切）にします。

2 ADF ドア開閉ボタンを押し、ADF ドアを開けます。

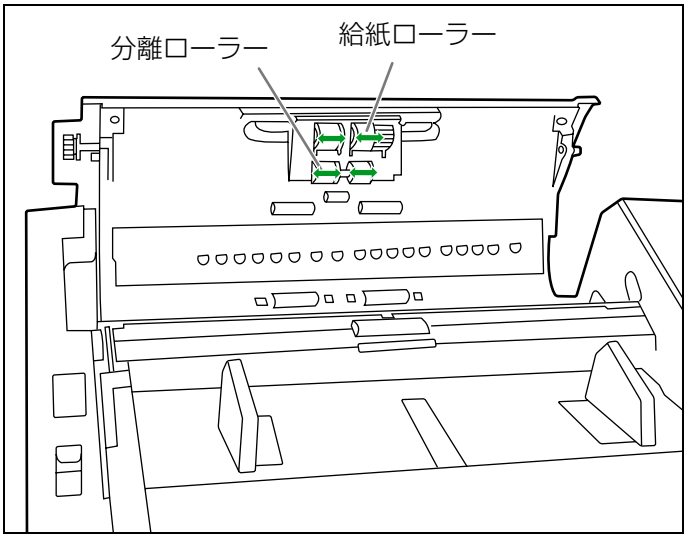


3 ローラークリーニングペーパーで、給紙ローラーと分離ローラー表面の汚れをふき取ります。

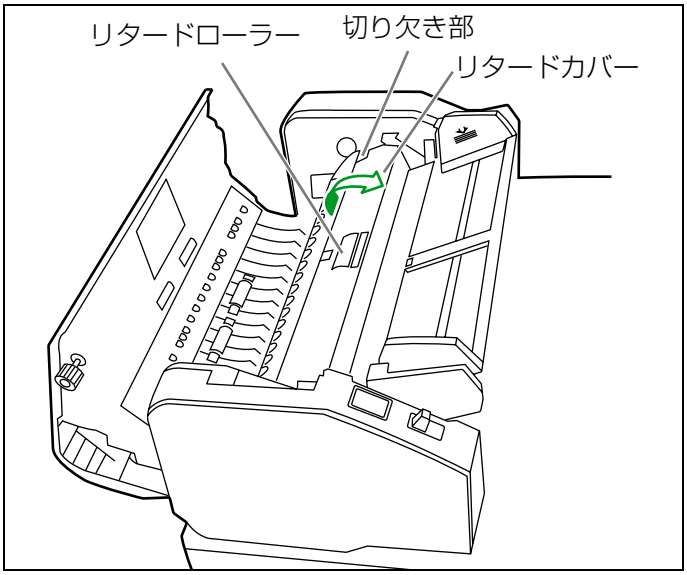
- **ローラー表面の汚れは、ローラーが回らないように押さえながら、矢印方向に全周ふき取ります。**

お 願 い

- **各ローラーは、必ず指定の方向にふき取ってください。（右図参照）**



4 後方の切り欠き部から、リタードカバーを矢印方向に開けます。

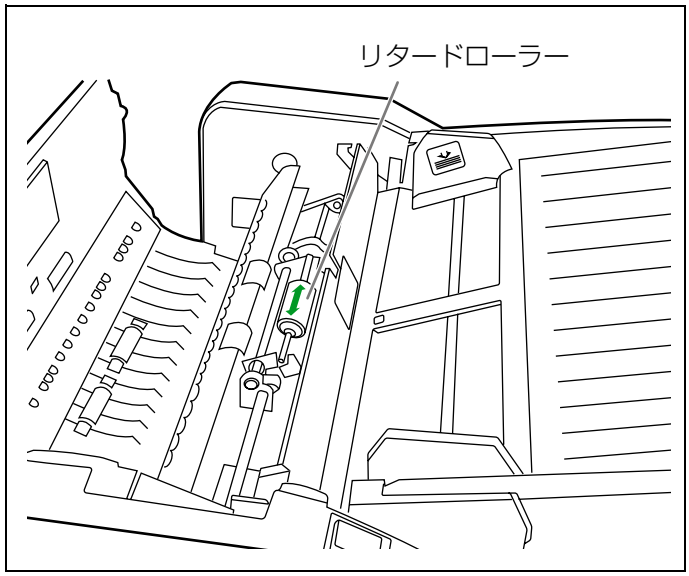


5 ローラークリーニングペーパーで、リタードローラー表面の汚れをふき取ります。

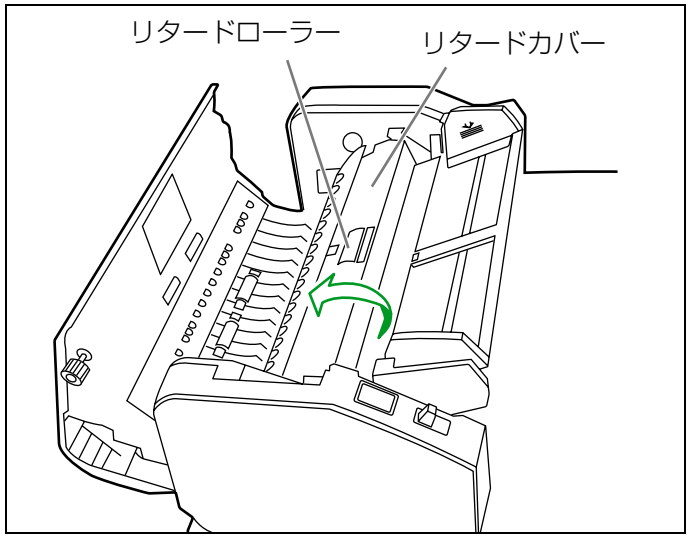
- **ローラー表面の汚れは、ローラーが回らないように押さえながら、矢印方向に全周ふき取ります。**

お 願 い

- **ローラーは、必ず指定の方向にふき取ってください。（右図参照）**



6 リタードカバーを矢印方向に閉めます。

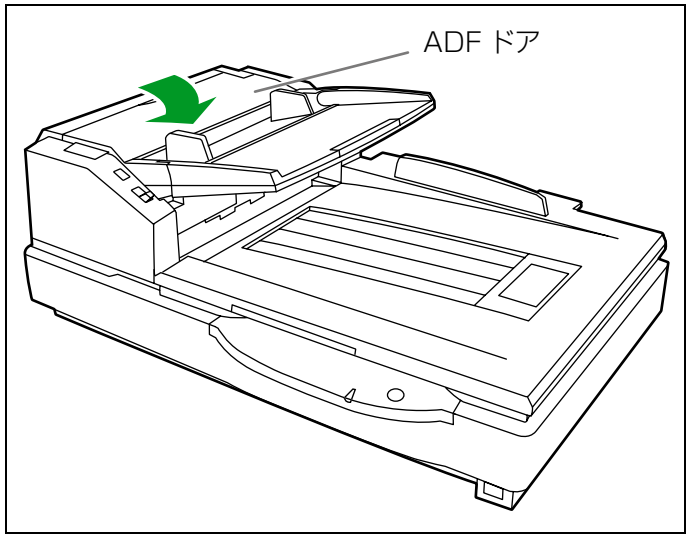


7 ADF ドアを閉めます。

- **「カチッ」と音がするまで、ゆっくり確実に閉めてください。**

8 清掃後はユーザーユーティリティーでローラー清掃カウンターをクリアーします。

- **ローラー清掃後、ユーザーユーティリティーで［ローラー清掃後］の［カウンタークリアー］ボタンをクリックしてカウンターが 0 になることを確認してください。**



■ 給紙口の駆動ローラーとフリーローラーの清掃

1 電源スイッチを「○」（切）にします。

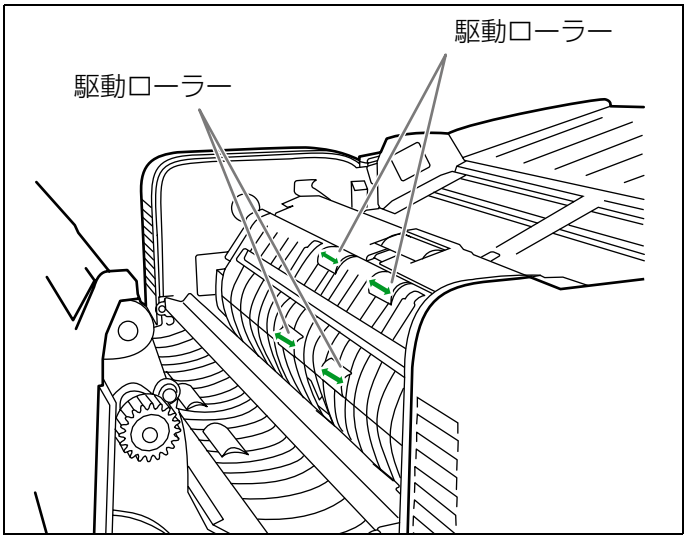
2 ADF ドア開閉ボタンを押し、ADF ドアを開けます。

3 ローラークリーニングペーパーで、4 個の駆動ローラー表面の汚れをふき取ります。

- **ローラー表面の汚れは、ローラーが回らないように押さえながら、矢印方向に全周ふき取ります。**

お 願 い

- **ローラーは、必ず指定の方向にふき取ってください。（右図参照）**

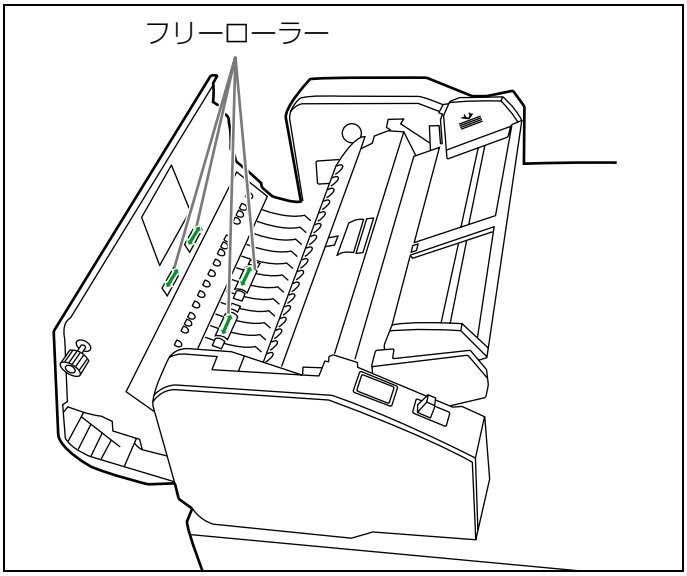


4 ローラークリーニングペーパーで、4 個のフリーローラー表面の汚れをふき取ります。

- **ローラー表面の汚れは、ローラーが回らないように押さえながら、矢印方向に全周ふき取ります。**

お 願 い

- **ローラーは、必ず指定の方向にふき取ってください。（右図参照）**



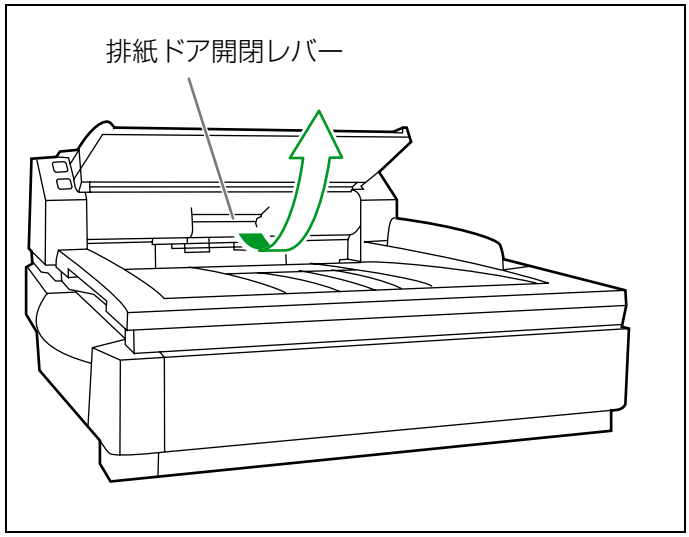
5 ADF ドアを閉めます。

- **「カチッ」と音がするまで、ゆっくり確実に閉めてください。**

■ 排紙口の駆動ローラー・フリーローラー・排紙ローラーの清掃

1 電源スイッチを「○」（切）にします。

2 排紙ドア開閉レバーを引いて排紙ドアを開けます。

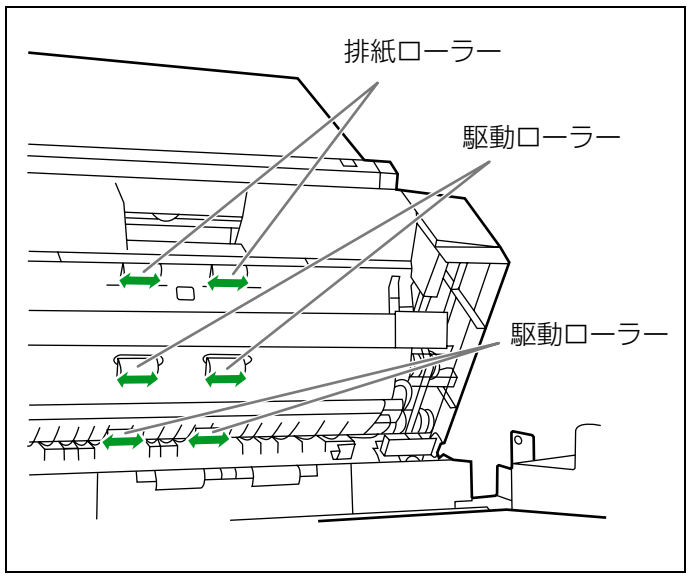


3 ローラークリーニングペーパーで、4 個の駆動ローラーと2個の排紙ローラー表面の汚れをふき取ります。

- **ローラー表面の汚れは、ローラーが回らないように押さえながら、矢印方向に全周ふき取ります。**

お 願 い

- **ローラーは、必ず指定の方向にふき取ってください。（右図参照）**

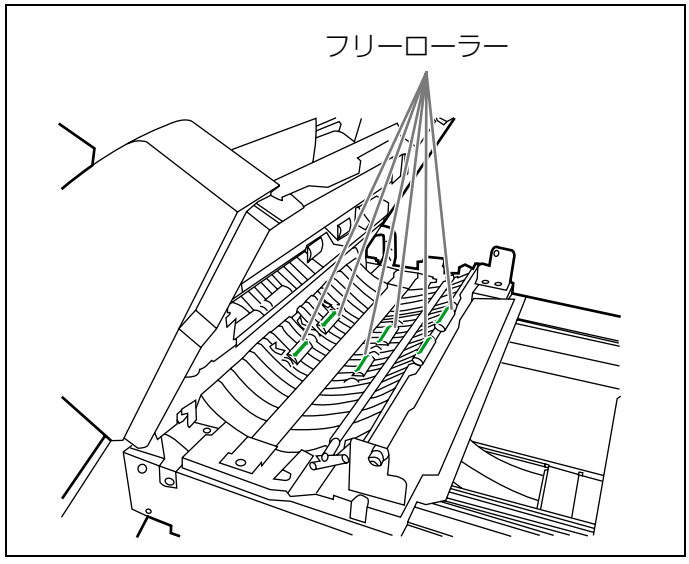


4 ローラークリーニングペーパーで、6 個のフリーローラー表面の汚れをふき取ります。

- **ローラー表面の汚れは、ローラーが回らないように押さえながら、矢印方向に全周ふき取ります。**

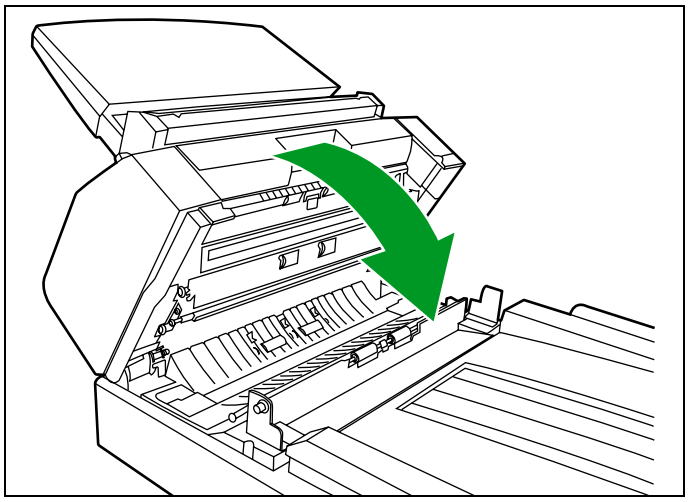
お 願 い

- **ローラーは、必ず指定の方向にふき取ってください。（右図参照）**



5 排紙ドアを閉めます。

- **「カチッ」と音がするまで、ゆっくり確実に閉めてください。**

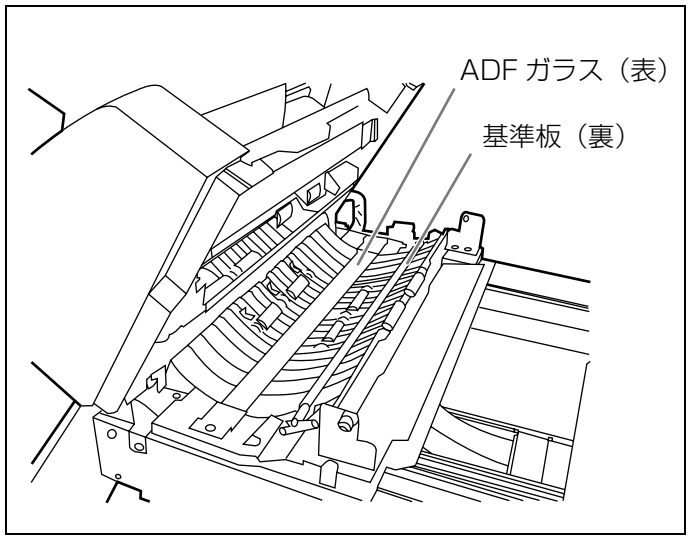


■基準板と ADF ガラスの清掃

1 電源スイッチを「○」（切）にします。

2 排紙ドア開閉レバーを引いて排紙ドアを開けます。

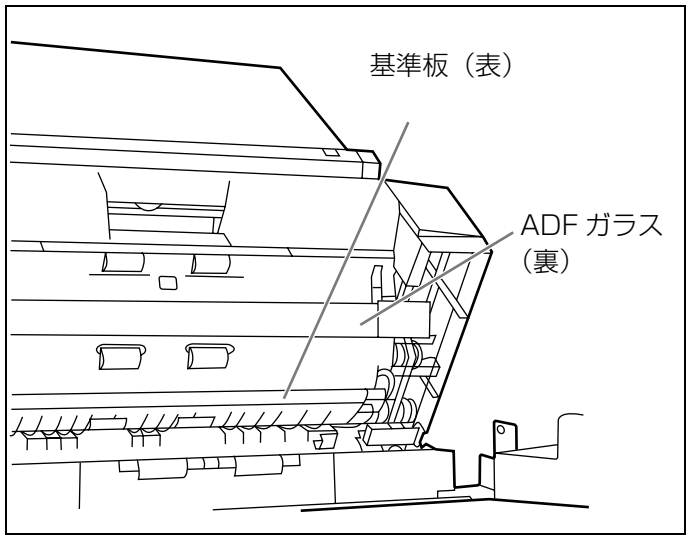
3 ローラークリーニングペーパーで、ADF ガラス（表）と基準板（裏）の汚れをふき取ります。



4 ローラークリーニングペーパーで、ADF ガラス（裏）と基準板（表）の汚れをふき取ります。

5 排紙ドアを閉めます。

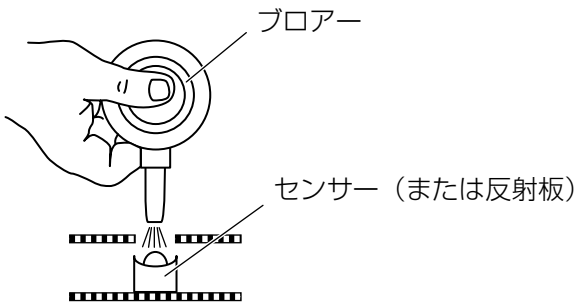
- **「カチッ」と音がするまで、ゆっくり確実に閉めてください。**



■原稿センサー、待機センサー、重送検知（発振）、重送検知（受信）の清掃

センサー（検知器）や反射板の清掃のしかた

本体付属のブロアーからブラシを取り外し、付着したごみを下図のように吹き飛ばします。.

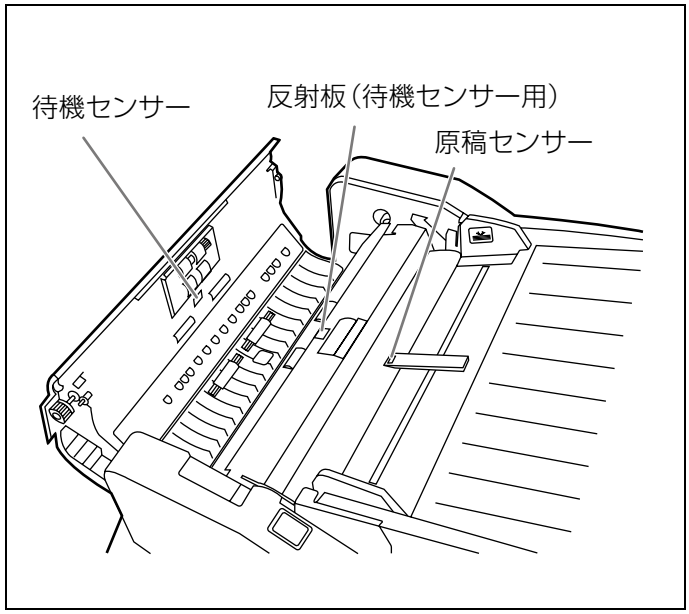


1 電源スイッチを「○」（切）にします。

2 ADF ドア開閉ボタンを押し、ADF ドアを開けます。

3 原稿センサーや待機センサーの表面に付着したごみを本体付属のブロアーを使い吹き飛ばします。

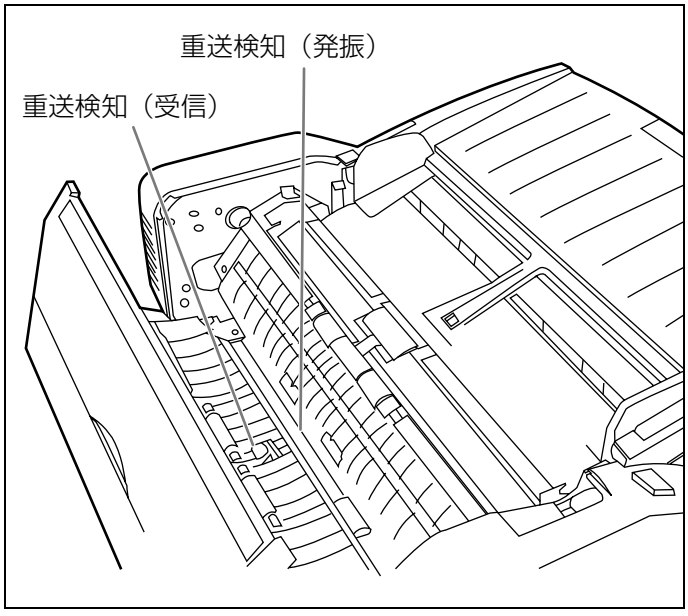
4 同様に待機センサーの反射板の表面に付着したごみも本体付属のブロアーを使い吹き飛ばします。



5 重送検知（発振）、重送検知（受信）に付着したごみを本体付属のブロアーを使い吹き飛ばします。

6 ADF ドアを閉めます。

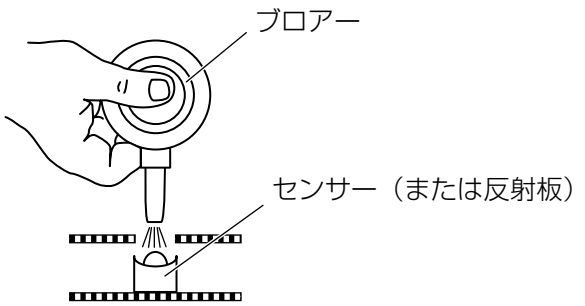
- **「カチッ」と音がするまで、ゆっくり確実に閉めてください。**



■始端センサー・スキューセンサー・排紙センサーと各センサー反射板の清掃

センサー（検知器）や反射板の清掃のしかた

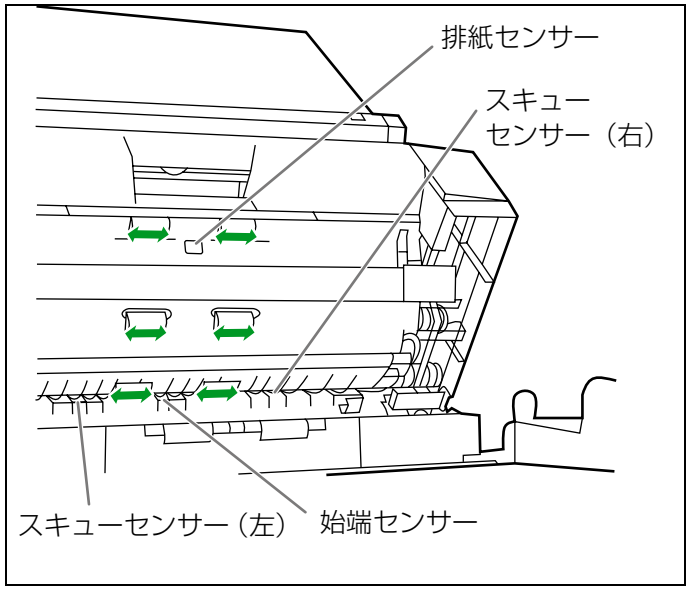
本体付属のブロアーからブラシを取り外し、付着したごみを下図のように吹き飛ばします。



1 電源スイッチを「○」（切）にします。

2 排紙ドア開閉レバーを引いて、排紙ドアを開けます。

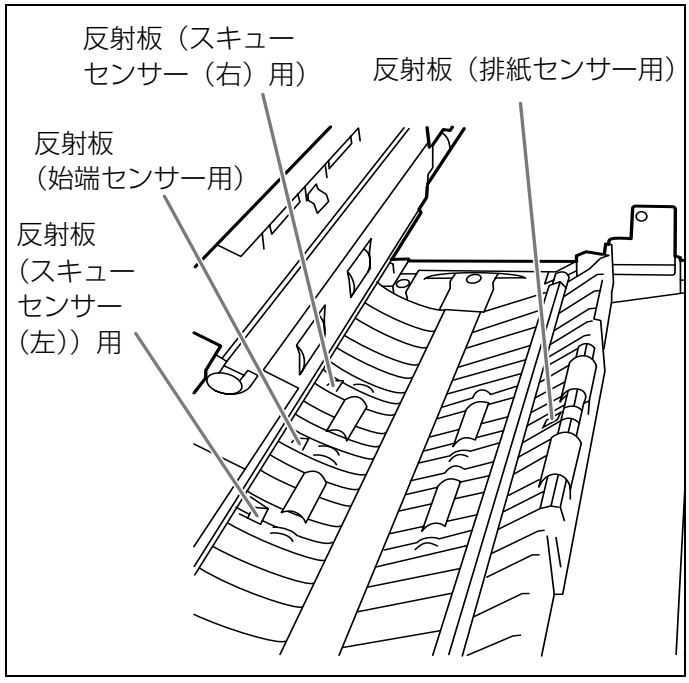
3 始端センサー、スキューセンサー（左）、スキューセンサー（右）、排紙センサーの各表面のごみを本体付属のブロアーを使い吹き飛ばします。



4 同様に、上記３のセンサー用反射板の表面のごみも本体付属のブロアーを使い吹き飛ばします。

5 排紙ドアを閉めます。

- **「カチッ」と音がするまで、ゆっくり確実に閉めてください。**

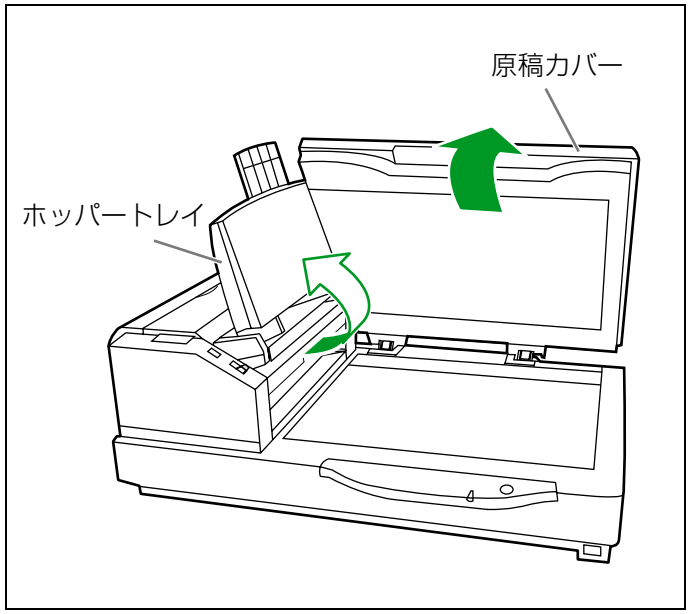


■フラットベッドガラスと原稿カバーセンサーの清掃

1 電源スイッチを「○」（切）にします。

2 ホッパートレイを矢印の方向に上げます。

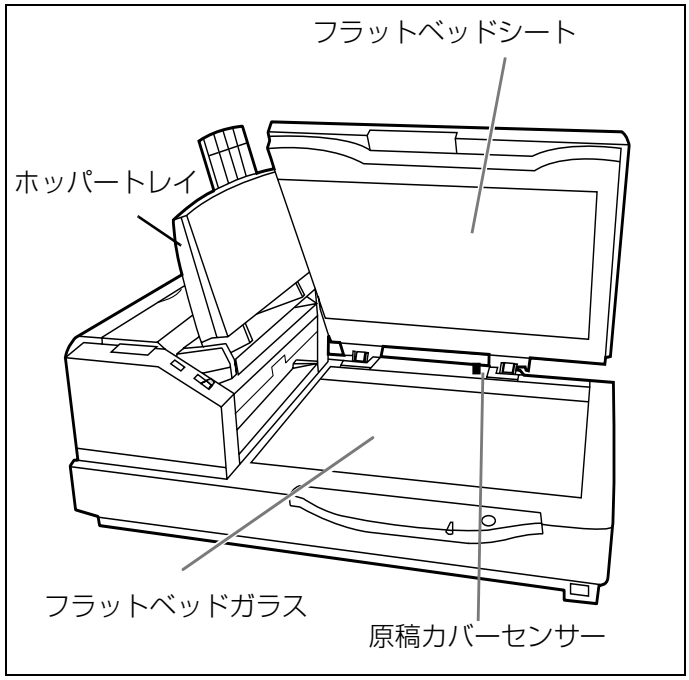
3 原稿カバーを開けます。



4 ローラークリーニングペーパーで、フラットベッドガラス表面の汚れをふき取ります。
同様に、フラットベッドシート表面の汚れもふき取ります。

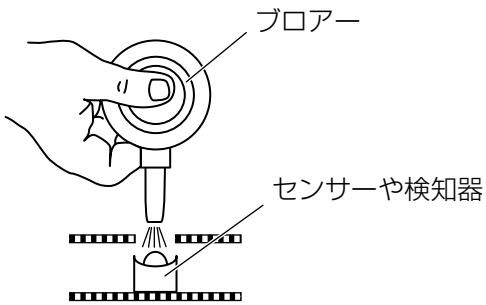
5 原稿カバーセンサーに付着したごみを本体付属のブロアーを使い吹き飛ばします。

6 原稿カバーを閉め、ホッパートレイを元に戻します。



センサー（検知器）や反射板の清掃のしかた

付属品のブロアーよりブラシを取り外し、付着したごみを下図のように吹き飛ばします。



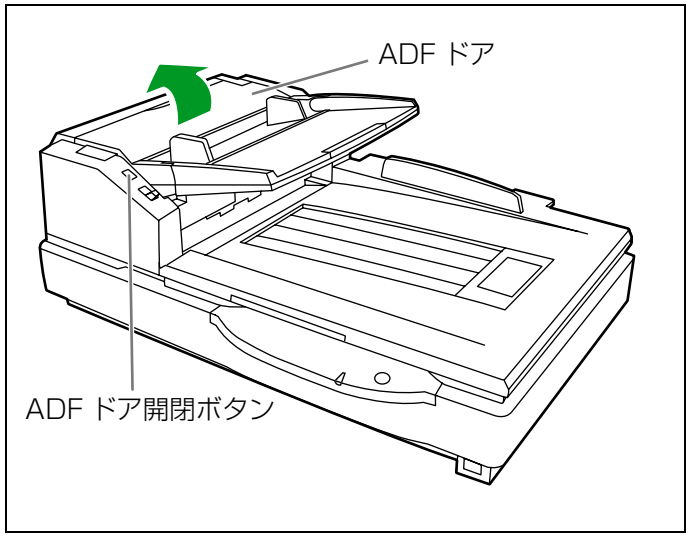
ローラーを交換する

■給紙ローラーモジュールの交換

約 30 万枚読み取り後、交換してください。

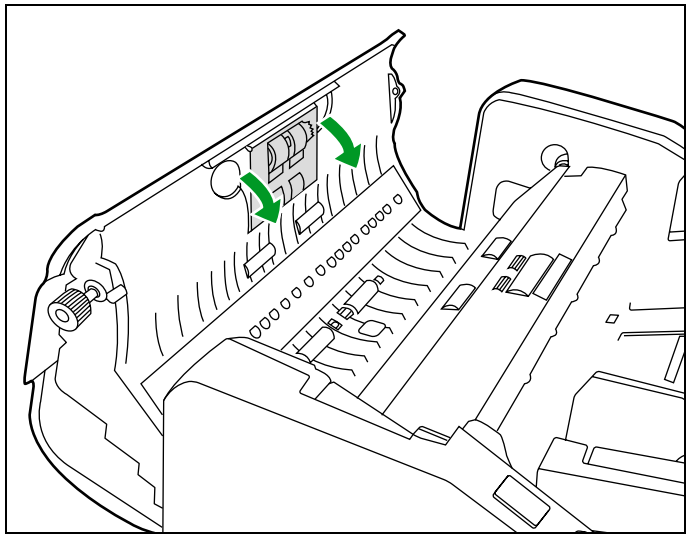
1 電源スイッチを「○」（切）にし、電源プラグをコンセントから抜きます。

2 ADF ドア開閉ボタンを押し、ADF ドアを開けます。



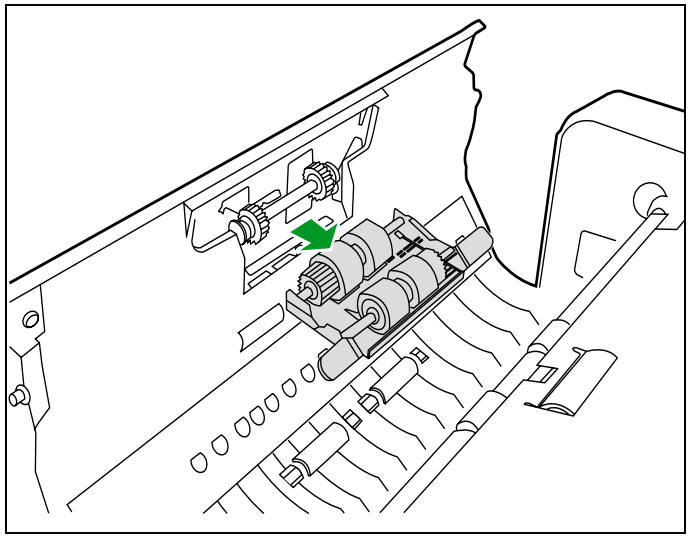
給紙ローラーモジュールを外す

3 矢印で示すように給紙ローラーモジュールの両端のプレートをつかみながら、手前に引き出します。



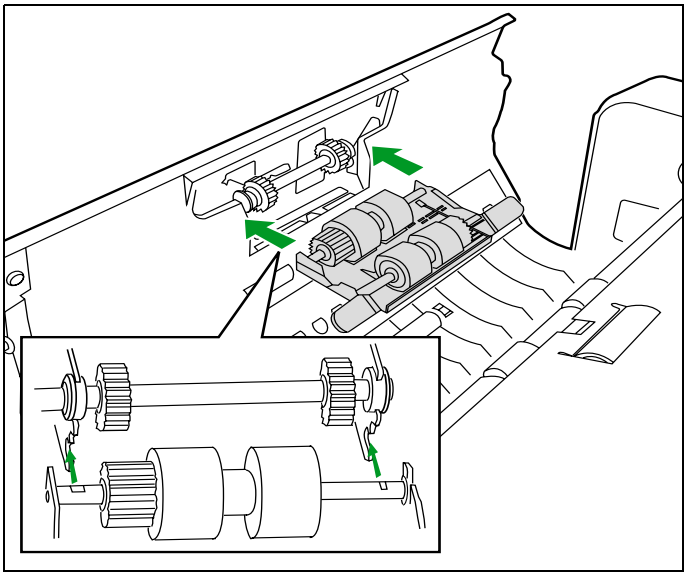
4 図のようにして給紙ローラーモジュールを取り出します。

5 別売の「ローラー交換キット（KV-SS015N）」から新しい給紙ローラーモジュールを取り出します。

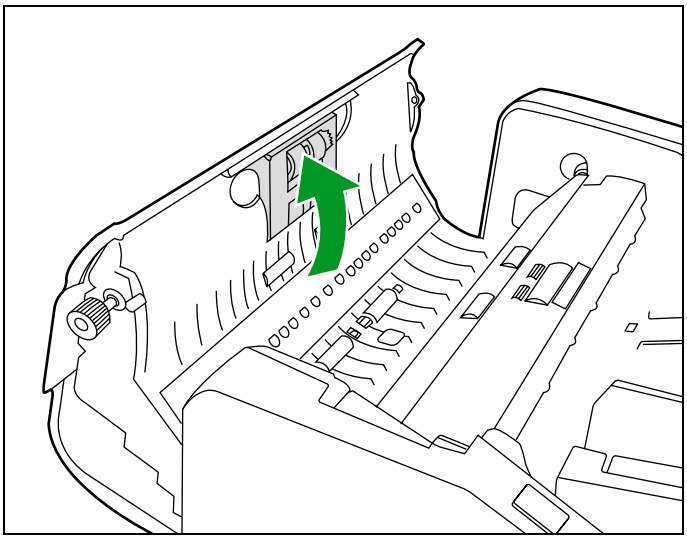


給紙ローラーモジュールを取り付ける

6 新しい給紙ローラーモジュールのシャフト両端の溝を本機の取り付け溝の位置に合わせながら、同モジュールを取り付けます。



7 給紙ローラーモジュールを矢印方向に押し上げ、両側の磁石で本機に固定します。



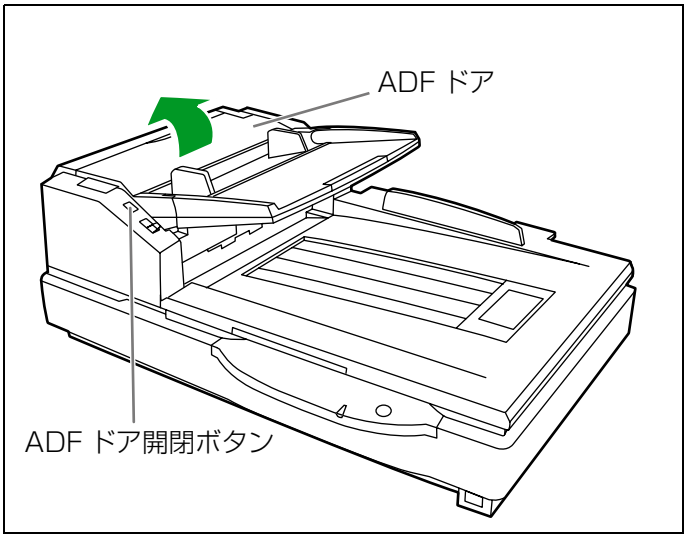
8 ADF ドアを閉めます。

- **「カチッ」と音がするまで、ゆっくり確実に閉めてください。**

■リタードローラーの交換

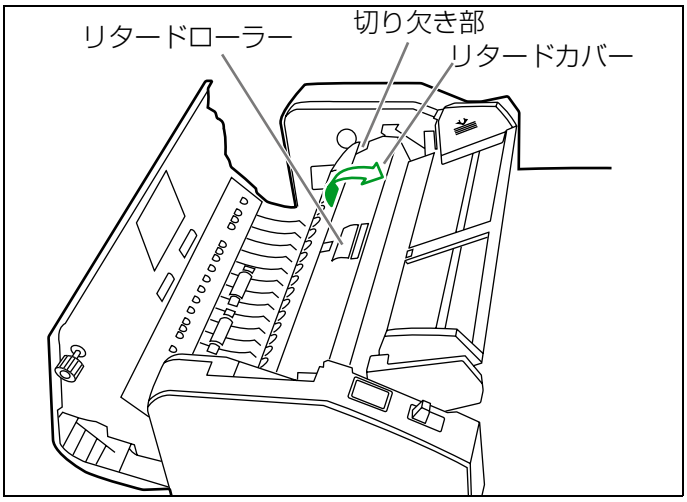
1 電源スイッチを「○」（切）にし、電源プラグをコンセントから抜きます。

2 ADF ドア開閉ボタンを押し、ADF ドアを開けます。



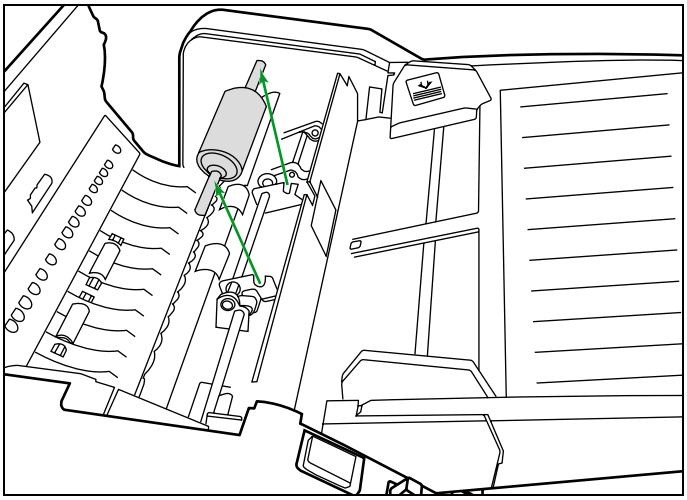
リタードローラーを取り外す

3 後方の切り欠き部から、リタードカバーを矢印方向に開けます。



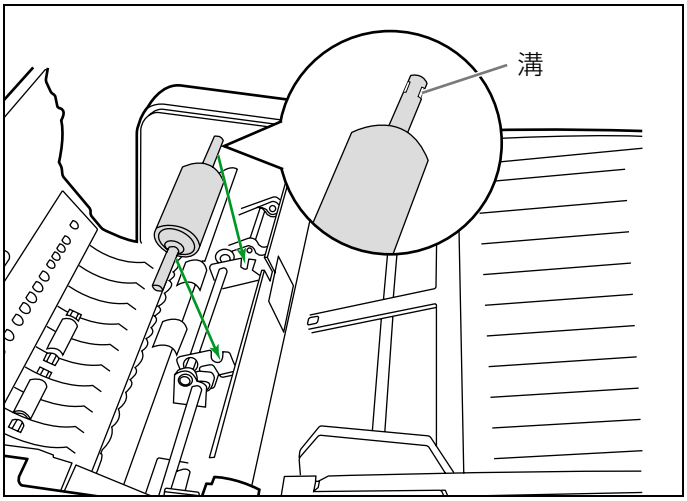
4 矢印方向にシャフトを持ち上げてリタードローラーを外します。

5 別売の「ローラー交換キット（KV-SS015N）」より新しいリタードローラーを取り出します。



リタードローラーを取り付ける

6 リタードローラーシャフトの溝を取り付け金具の溝に合わせて取り付けます。



7 リタードカバーを閉めます。

8 ADF ドアを閉めます。

- **「カチッ」と音がするまで、ゆっくり確実に閉めてください。**

9 交換後は、ユーザーユーティリティーでローラー交換後カウンターとローラー清掃後カウンターの両方をクリアーしてください。

- **ローラー交換後、ユーザーユーティリティーで［ローラー交換後］の［カウンタークリアー］ボタンと［ローラー清掃後］の［カウンタークリアー］ボタンの両方をクリックして各カウンターが 0 になることを確認してください。**

シェーディング補正

●シェーディング補正とは

ランプ光量分布のバラツキを、読み取り範囲で一定の出力を確保するための処理をシェーディング補正と言います。
本スキャナーでは、付属の専用シェーディング用紙を用いてユーザーユーティリティーにて行うことができます。

●シェーディング補正が必要な時

読み取った画像の色が部分的に極端に異なるとき、または画像品質がスキャナーの内部を清掃した後も改善されないときに行ってください。

●シェーディング補正を実施する前に

シェーディング補正を行う前には、必ず ADF ガラス（表）、ADF ガラス（裏）、基準板（表）、基準板（裏）および読取り部周辺の搬送路、駆動ローラーを確実に清掃してください。
汚れたままでシェーディング補正を行いますと、読み取った画像にスジが入ったまま消えなくなります。

●シェーディング補正方法

1. ユーザーユーティリティーを起動してください。
2. メインメニュー上の「ユーザーシェーディング」をクリックし、画面の表示に従って操作してください。
   詳細はユーザーユーティリティーリファレンスマニュアルの 4.6 を参照してください。

●注意

シェーディング補正を行った後に読取った画像にスジが入り、ADF ガラスを清掃してもスジが消えない時はシェーディングが正しく行われていませんので、再度清掃をしてからシェーディング補正を行ってください。

再包装のしかた

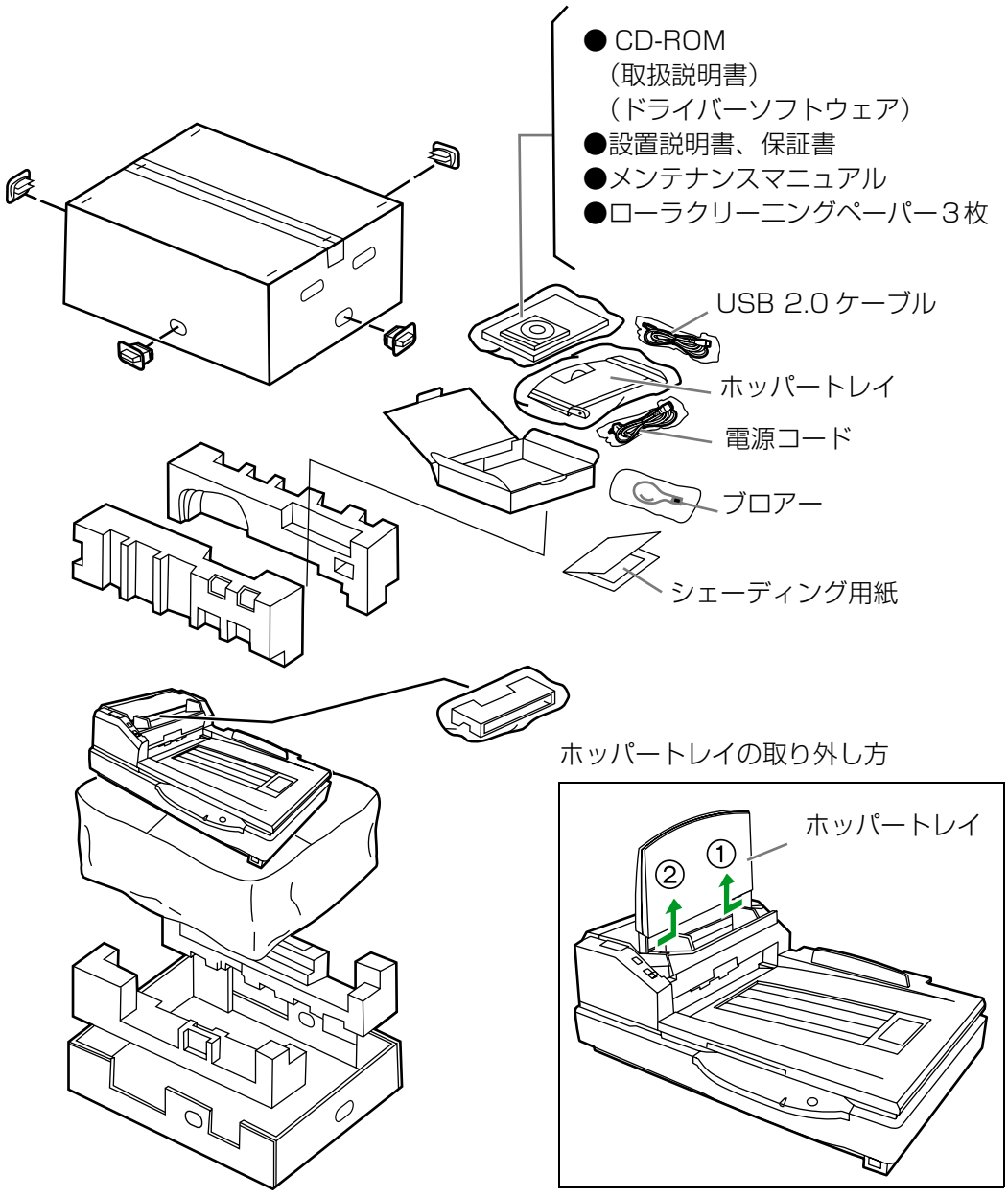
輸送用包装箱、緩衝材などの包装資材は、再包装時に必要になりますので、すべて大切に保管してください。
本機を移設する場合は、以下の手順に従って再包装してください。
包装時に必要なもの：
- 本機専用の包装箱・包装資材
- 包装用テープ・はさみ

お 願 い
- 再包装する際は、必ず本機専用の包装箱・包装資材をご使用ください。
- 再包装が適切に行われていないと本機が故障し、修理に費用がかかりますので十分注意してください。
- 包装時および運搬時は、本機を倒さないでください。

1 電源スイッチを切って、コンセントから電源プラグを抜き、インターフェースケーブルを外します。

2 ホッパートレイを取り外します。

3 本機を付属品と一緒に包装します。



ホッパートレイの取り外し方

困ったとき!? (簡単なトラブル点検)

使用中に異常が発生した場合には、下表に従ってまずご確認ください。
それでも直らないときは、必ず電源を切ってから、お買い上げの販売店にご連絡ください。

症　状		原　因	処　置
電源を入れても、LED が点灯しない		電源プラグが抜けています	電源プラグを確実に差し込みます
		電源に問題があります	電源コードをコンセントから抜き、サービスマンに連絡してください
コンピューターからスキャナーが認識されない、動作が不安定		本機とコンピューターが正しく接続されていません	スキャナーとコンピューターを接続するケーブルを確実に接続します
		スキャナーがコンピューターに正しく登録されていません	スキャナーを一度コンピューターからアンインストールした後にスキャナーの登録を行ってください (設置説明書の 18 ページから 22 ページを参照してください)
	SCSI 接続時	コンピューターが SCSI カードを認識しません	デバイスマネージャーのプロパティなどで確認し、SCSI カードを正しくインストールしてください
		本機の SCSI ID が他に接続されている機器と同じ ID になっています	重複しない SCSI ID に設定してください
		SCSI で接続している場合に、コンピューターの電源を入れた後にスキャナーの電源を入れた	コンピューターの電源を切ります。スキャナーの電源を入れてから、コンピューターの電源を入れてください
	USB 接続時	コンピューターのUSBインターフェースが正しくインストールされていません	デバイスマネージャーのプロパティなどで確認し、USB インターフェースを正しくインストールしてください
		USB ハブを経由して接続している	USB ハブを経由して接続しないでください
		High Speed ロゴ認定なしのケーブルを使用している	High Speed ロゴ認定品のケーブルを使用してください
USB 接続時に読み取り速度が遅くなる		USB1.1 に接続している	USB2.0 に接続してください
ADF ドア開閉ボタンを押しても ADF ドアが開かない		ADF ドアがしっかり閉じていない	ＡＤＦ ドアを確実に閉めてから、再度開閉ボタンを押してください
(ADF) 給紙トレイに原稿を乗せても、読み取りスタートしない		原稿が正しくセットされていません	原稿を正しくセットします (☞ 16 ページ)
		原稿がカールしてセンサーにかかっていません	原稿のカールを伸ばしてから、給紙トレイに再度セットします

困ったとき !?（簡単なトラブル点検）

症　状	原　因	処　置
(ADF) 原稿が重送するなどスムーズに搬送されなかったり、読み取りの途中で原稿が止まる	給紙、搬送、排紙の各ローラーが汚れています	ローラーを清掃します (☞ 29 ページ)
	給紙、搬送、排紙の各ローラーが摩耗しています	給紙ローラーモジュールとリタードローラーモジュールを交換します (☞ 37 ページ、39 ページ)
	原稿がカールしたり、端が折れるなどにより、左右の厚みが違っています	原稿のカールまたは折り目を直し、枚数を減らします
	規定外の種類または厚みの原稿です	読み取り可能な原稿サイズの用紙にコピーして読み取ります(☞ 16ページ)
	原稿の長さが規定（70 mm）より短い	読み取り可能な原稿サイズの用紙にコピーして読み取ります(☞ 16ページ)
(ADF) 読み取り画像が斜めになっている	原稿ガイドが原稿の両端に当っていない、または原稿が斜めにセットされています	原稿ガイドや原稿を正しくそろえてセットします
	原稿がカールしたり、端が折れるなどにより、左右の厚みが違っています	原稿のカールまたは折り目を直し、枚数を減らしてセットします
読み取り後の画面表示が真っ白である	読み取り面が裏返しにセットされています	読み取り面を正しくセットしてください(☞ 19 ページ)
読み取り後の画面表示に縦スジが現れる	ADF ガラス、フラットベッドガラスが汚れています	ADF ガラス、フラットベッドガラスを清掃します (☞ 33 ページ、36 ページ)
	基準板、フラットベッドシートが汚れています	基準板、フラットベッドシートを清掃します (☞ 33 ページ、36 ページ)
読み取り画像に濃度ムラがある	ADF ガラス、基準板、フラットベッドガラス、フラットベッドシートが汚れています	ADF ガラス、基準板、フラットベッドガラス、フラットベッドシートの清掃を行います (☞ 33 ページ、36 ページ)
	光量分布のバラツキがあります	シェーディングを調整します。ユーザーユーティリティーの 4.6 項を参照してください。
読み取り画像の色調が著しく原稿と異なる	ディスプレイの設定がずれています	ディスプレイの設定を調整します
読み取り画像に黒点やノイズが発生する	ADF ガラス、基準板、フラットベッドガラス、フラットベッドシートが汚れています	ADF ガラス、基準板、フラットベッドガラス、フラットベッドシートの清掃を行います。 (☞ 33 ページ、36 ページ)
読み取り画像に縞模様や波模様（モアレ）がある	原稿の印刷パターンと読み取り画像の関係により発生することがあります	モアレ除去機能を使用するか、読み取り解像度を変えて読み取ってください

保証とアフターサービス　よくお読みください

修理・お取り扱い・お手入れ
などのご相談は…

まず、お買い上げの販売店へ
お申し付けください

● **相談先がなくお困りの場合は・・・**
保証書表面に記載されています連絡先へ
お問い合わせください。

■保証書（別添付）

お買い上げ日・販売店名などの記入を必ず確かめ、お買い上げの販売店からお受け取りください。
よくお読みのあと、保存してください。

保証期間：お買い上げ日から本体１年間

ただし、ローラークリーニングペーパー、ローラー交換キット、インクカートリッジは、消耗品ですので保証期間内でも「有料」とさせていただきます。

■補修用性能部品の保有期間

当社は、この高速カラースキャナーの補修用性能部品を、製造打ち切り後7年保有しています。

注）補修用性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。

修理を依頼されるとき

取扱説明書 43～44 ページの表に従ってご確認のあと、直らないときは、まず電源プラグを抜いて、お買い上げの販売店へご連絡ください。

●保証期間中は
保証書の規定に従って、出張修理をさせていただきます。

●保証期間を過ぎているときは
修理すれば使用できる製品については、ご希望により修理させていただきます。
下記修理料金の仕組みをご参照のうえご相談ください。

ご連絡いただきたい内容	
品　名	高速カラースキャナー
品　番	KV-S7065CN
お買い上げ日	年　月　日
故障の状況	できるだけ具体的に

●修理料金の仕組み
修理料金は、技術料・部品代・出張料などで構成されています。

技術料は、診断・故障個所の修理および部品交換・調整・修理完了時の点検などの作業にかかる費用です。

部品代は、修理に使用した部品および補助材料代です。

出張料は、お客様のご依頼により製品のある場所へ技術者を派遣する場合の費用です。

ご相談窓口におけるお客様の個人情報のお取り扱いについて

松下電器産業株式会社および松下グループ関係会社（以下「当社」）は、お客様よりお知らせいただいたお客様の氏名・住所などの個人情報（以下「個人情報」）を、下記のとおり、お取り扱いします。

1. 当社は、お客様の個人情報を、ナショナル パナソニック製品のご相談への対応や修理およびその確認などに利用させていただき、これらの目的のためにご相談内容の記録を残すことがあります。
また、お客様に折り返し電話させていただくときのために、ナンバー・ディスプレイを採用しています。なお、修理やその確認業務を当社の協力会社に委託する場合、法令に基づく義務の履行または権限の行使のために必要な場合、その他正当な理由がある場合を除き、当社以外の第三者に個人情報を開示・提供いたしません。
2. 当社は、お客様の個人情報を、適切に管理します。
3. お客様の個人情報に関するお問い合わせは、ご相談いただきましたご相談窓口にご連絡ください。

仕様

項目 ＼ 品番			KV-S7065CN
読み取り部	読み取り面		両面読み取り
	読み取り方法		CIS（密着式カラーイメージセンサー）
	読み取り速度＊1（A4 縦）	フラットベッド	0.748 秒（A4、200 dpi）、320 μsec / line
		ADF	片面読み取り時：約 60 枚／分 両面読み取り時：約 50 枚／分（100 画像／分）
	解像度	フラットベッド/ADF	100 ～ 600 ドット／インチ（1 ドット／インチ　ステップ） 光学解像度：600 ドット／インチ 主走査方向と副走査方向の解像度は同じです。
	階　　調		2 値、グレースケール（8 ビット）、 ディザ処理（16/256 階調）＊2、誤差拡散処理＊2
	画像処理		画質（5 段階）、ダイナミックスレッシュホールド＊2、 ノイズ除去＊2、傾き補正＊2、像域分離＊2、鏡像反転＊2、 白黒反転＊2、ガンマ補正
	読み取り原稿サイズ	フラットベッド	297 x 432 mm まで
		ADF	48 x 70 mm ～ 297 mm x 635 mm
	搬送可能原稿厚み	ADF	0.05 mm ～ 0.15 mm
	搬送可能原稿重量	ADF	40 ～ 127 g/m^2 A7 サイズ以下の原稿は、127 g/m^2 以上
	ホッパー容量		最大 200 枚（64 g/m^2 紙）
本　　体	外形寸法（横幅×奥行×高さ）		755 x 508 x 289 mm
	質　　量		29 kg
	電　　源		交流 100 － 120 V、50/60 Hz
	消費電力	スキャナー読み取り中	1.5 A
		待　機　中	0.6 A
		省電力モード中	6.2 W 以下
環　　境	使 用 環 境		温度：15 ～ 30 ℃、湿度：30 ～ 80 %
	保 存 環 境		温度：0 ～ 35 ℃、湿度：10 ～ 80 %
付 属 品	電源コード、USB2.0 ケーブル、ホッパートレイ、ローラークリーニングペーパー、ブロアー、シェーディング用紙、 CD-ROM（RTIV ソフトウェア、ISIS ドライバー、TWAIN ドライバー、ユーザーユーティリティー、取扱説明書、PIE リファレンスマニュアル、RTIV リファレンスマニュアル、ユーザーユーティリティーリファレンスマニュアル）、 印刷物（設置説明書、メンテナンスマニュアル）、保証書		
別 売 品	ローラー交換キット（KV-SS015N） ローラークリーニングペーパー（KV-SS03NA） インプリンター（KV-SS014N） インクカートリッジ（KV-SS021N）		

＊1 読み取り速度はテスト環境によって異なります。
＊2 これらの機能はドライバーソフトウェアか RTIV により実行されます。

さくいん

— アルファベット順—

ページ

ADF ガラス 13, 33
ADF ドア 12, 26, 29
ADF ドア開閉ボタン 12, 26, 29
CD-ROM. 10, 42
CPU 2
DIP スイッチ 12, 14
LED 15
OS 2
SCSI ID の設定 14
SCSI コネクター 12
SCSI 接続 2
STOP/START ボタン 12
USB ハブ 2, 43
USB コネクター. 12
USB 接続 2, 14, 15

— 五十音順—

ページ

あ

安全上のご注意 5
インターフェース. 2
インプリンタードア 12
上カバー 12
内側（読み取り部）の清掃 28
エネルギースター. 3
お手入れ . . . . . 28 – 36

か

外形寸法 46
解像度. 46
階調 46
各部のなまえと働き 12
画像処理 46
基準板. 13, 24, 33
給紙口. 20, 26
給紙ローラー 29
給紙ローラーモジュール 37
駆動ローラー 31, 32
原稿ガイド. 12, 17, 19, 20
原稿カバー. 12, 25
原稿サイズ. 46
原稿センサー 34
原稿詰まり. 26
原稿の読み取り 16, 21
後面ストッパー 12
困ったとき. 43
コントロールシート 23
コンピューター 2

ページ

さ

最大量表示. 19
再包装 42
シェーディング. 41, 44
シェーディング用紙 42
システムの必要条件 2
始端センサー 35
質量. 46
重送検知センサー 34
仕様. 46
使用環境 46
消費電力 46
スキューセンサー 35

た

待機センサー 34
正しくお使いいただくためのお願い 10
縦置き 19
デイジーチェイン 2
手差し切替レバー 12, 18, 20
電源. 46
電源コード. 5, 12, 42
電源スイッチ 12, 15
電源用コネクター 12
電源ランプ（LED) 12

ページ

は

ハードディスク 2
排紙ストッパー 12, 18
排紙センサー 35
排紙ドア 13, 24, 27
排紙ドア開閉レバー 13, 24
排紙トレイ 12
排紙ローラー 32
ファン排気口 12, 28
付属品 46
フラットベッド 21, 25, 46
フラットベッドガラス 13, 28, 36
フラットベッドシート 13, 25, 36
フリーローラー 31, 32
ブロアー 34, 35, 36, 42
分離ローラー 29
別売品 46
保証とアフターサービス 45
保存環境 46
ホッパー 12, 18
ホッパートレイ 12, 16, 21
ホッパー容量 46
ホッパー延長トレイ 12, 18

ま

メモリー 2

や

ユーザーユーティリティー 15, 30, 40, 41
横置き 19
読み取り可能な原稿 16
読み取り速度 46
読み取り方法 46
読み取り面 46

ら

リタードカバー 29, 30, 39
リタードローラー 29, 39

ろ

ローラークリーニングペーパー 28
ローラーの交換 37
　給紙ローラーモジュールの交換 37
　リタードローラーの交換 39

パナソニック コミュニケーションズ株式会社
オフィスネットワークカンパニー

〒 153 − 8687 東京都目黒区下目黒２− ３− ８ 電話 (03)3491-9191

© 2004 Panasonic Communications Co., Ltd. All Rights Reserved.

JP-20070705